



【NRC自主調査レポート】

ユニバーサルデザイン社会の実現度 定点観測調査

～障害の社会モデルは日本社会にどこまで浸透しているか～
第2回（2018年9月）調査

2019年6月



株式会社日本リサーチセンター

<https://www.nrc.co.jp/>

I. ユニバーサルデザイン社会の実現度 定点観測調査について	3
II. 調査実施概要	6
III. 調査票の設計	7
IV. 調査結果 Part1 データ紹介	
IV-1-1. 障害理解の実態	
1) 社会のあり方に対する考え	
①共生社会推進に対する態度	14
②ユニバーサルデザインのまちづくり推進に対する態度	15
2) 障害・障害者に対する意識	
①ステレオタイプ	16
②心のバリアフリー（援助行動・交流意思）	17
③心のバリアフリー（無関心）	18
3) 障害の捉え方	
①障害の医学モデルへの賛同状況	19
②障害の社会モデルへの賛同状況	20
4) 障害をめぐる意識・捉え方 時系列変化まとめ	21
IV-1-2. 社会的障壁に接した場面での行動イメージ	
1) バーゲンセール会場	22
2) 無人駅	24
IV-1-3. 共生社会の実現度合評価	25
IV. 調査結果 Part2 分析	
IV-2-1. 障害をめぐる各意識間の関係性	27
IV-2-2. 障害の社会モデル賛同者の構造	
1) 社会モデル賛同と医学モデル賛同の混在状況	29
2) 社会モデル賛同とステレオタイプの混在状況	30
3) 社会モデル賛同と分離発想の混在状況	31
IV-2-3. 障害の社会モデル獲得者 タイプ分類	32
①属性別出現率	34
②社会的障壁に接した場面での行動イメージ	36
③共生社会の実現度合評価	38
■結果サマリー	40
■調査票（単純集計結果付）	
2018年調査票	43
2017年調査票	45

🕒 ユニバーサルデザインとは

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会のレガシー（後世に残され、未来に引き継がれる財産）として、共生社会の実現、ユニバーサルデザイン社会の実現、心のバリアフリーの推進を目指し、いま、日本が動いています。

障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいようあらかじめ都市や生活環境をデザインするという考え方、それが**ユニバーサルデザイン**です。

階段しかない建物では、車椅子の人や杖が必要な人が生活するのは困難ですが、最初からこのような人々も利用しやすい設計がなされているればこうした問題はおきません。社会にユニバーサルデザインが広まれば、これまで障害のある人々が直面してきた社会の中にあるさまざまな障壁も取り除かれていきます。

障害の社会モデルという考え方があります。これは、「**障害は個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である**」として、「障害の原因は不利な状況をつくる社会の側にある」ことを説明するものです。障害の社会モデルは、2006年国際連合が採択した障害者権利条約に示され、「障害はもっぱら個人の機能的特質に起因する個人的な問題」としてきたそれまでの障害認識を大きく転換させました。

日本でも2016年施行の障害者差別解消法をはじめとして障害の社会モデルに基づく諸施策がスタートし、ユニバーサルデザインによるまちづくりを進めていくため、2017年にはユニバーサルデザイン2020関係閣僚会議によって「ユニバーサルデザイン2020行動計画」が策定されました。

🔄 調査実施の背景と目的

日本リサーチセンターは、内閣官房「平成28年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査（ユニバーサルデザインの社会づくりに向けた調査）」に調査事務局として参画し、ユニバーサルデザインを進めていくための試行プロジェクトの効果や改善点を調査・分析しました。この事業を通じて、2016年当時の日本社会において障害の社会モデルの理解・実践はまだ十分なレベルに達しておらず、それを社会に浸透させていくことが喫緊の課題であることがわかりました。

2020年に向けて全国各地で心のバリアフリーを広める取り組み、誰もが安全で快適に移動できるユニバーサルデザインのまちづくりが進みつつあります。そこで弊社としては、“調査”というツールを利用して、この間の人々の意識の動き、社会の動きをキャッチし、社会の記録として残していきたいと考え、5年にわたる定点観測調査を企画しました。

ユニバーサルデザイン関係閣僚会議（事務局：内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部）

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/udsuisin/index.html

ユニバーサルデザイン2020行動計画

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/ud2020kkkaigi/pdf/2020_keikaku.pdf

平成28年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査（ユニバーサルデザインの社会づくりに向けた調査）調査報告書

http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tokyo2020_suishin_honbu/udsuisin/pdf/201703_hokoku.pdf

🕒 定点観測の計画

「障害の社会モデルの考え方は日本社会にどこまで浸透していくのか」、歴史的なイベントである「2020年東京大会はユニバーサルデザイン社会の実現というレガシーを残すことができるのか」ということを知るため、2017年から2021年までの5年間、全国の一般市民（15～79歳）を対象とした全6回の定点観測調査を実施します。

	調査実施期間	結果公表
第1回調査	2017年11月2日～11月14日	(公開中)
第2回調査	2018年8月31日～9月12日	(公開中) ※本レポート
第3回調査	2019年 9 月頃実施予定	2020年1月頃公開予定
第4回調査	2020年 5 月頃実施予定 ※東京大会開催直前	2021年1月頃公開予定
東京オリンピック競技大会開催 2020年7月24日（金）～ 8月9日（日） 東京パラリンピック競技大会開催 2020年8月25日（火）～ 9月6日（日）		
第5回調査	2020年 9 月頃実施予定 ※東京大会開催直後	2021年1月頃公開予定
第6回調査	2021年 9 月頃実施予定	2022年1月頃公開予定

- ▲ 調査結果については、弊社ホームページにて公表します。
- ▲ 共生社会に向けた研究に関しては、無料で調査データを提供いたします（調査結果を引用等でお使いいただく場合には、弊社名の記載をお願いします）。

Ⅱ. 調査実施概要

調査方法

調査員による個別訪問留置調査
日本リサーチセンターオムニバスサーベイ（NOS）を利用

調査対象

全国の15～79歳の男女個人 1,200人

抽出方法

層化3段抽出
【地点抽出】 全国200地点を、大字・町丁目を抽出単位として、9地域ブロック×4都市規模で層化無作為抽出
【世帯抽出】 全国住宅地図データベースを抽出フレームとして、各抽出地点で訪問世帯を等間隔抽出
【個人抽出】 各層の母集団の性別・年代構成比に合わせて各地点で依頼回収する性別・年代を割り当てる(1地点6人ずつ)
抽出世帯において、地点割当に合致する個人に依頼・回収する
母集団は2015年国勢調査人口を用いた

調査実施主体

株式会社日本リサーチセンター(自主調査)

日本リサーチセンター オムニバス サーベイ（NOS）について

弊社では、全国15～79歳男女1,200人を対象に、訪問留置オムニバス調査（NOS）を毎月定期的の実施しています。
弊社訪問調査員が、層化無作為抽出した全国200地点で、住宅地図から無作為に抽出したお宅を訪問し、地域・都市規模と性年代が日本の人口構成に合致するように対象者に依頼する調査です。そのため、全体結果は、日本全国15～79歳男女の実態や意識をバランスよく反映したものとしてご覧になれます。

NOSの特長

インターネットアンケートパネルを使って簡単に調査ができる時代になりましたが、日本リサーチセンターでは、45年以上にわたって、調査員を使った訪問留置、パネルモニターではない毎回抽出方式で、日本リサーチセンターオムニバスサーベイ「NOS」を継続実施し、代表性のある信頼の高いデータを提供してきました。
インターネット調査では、回収が難しい60代以上の対象者やインターネットを使っていない人の実態や意識を分析するのにも有用な手法と言えます。

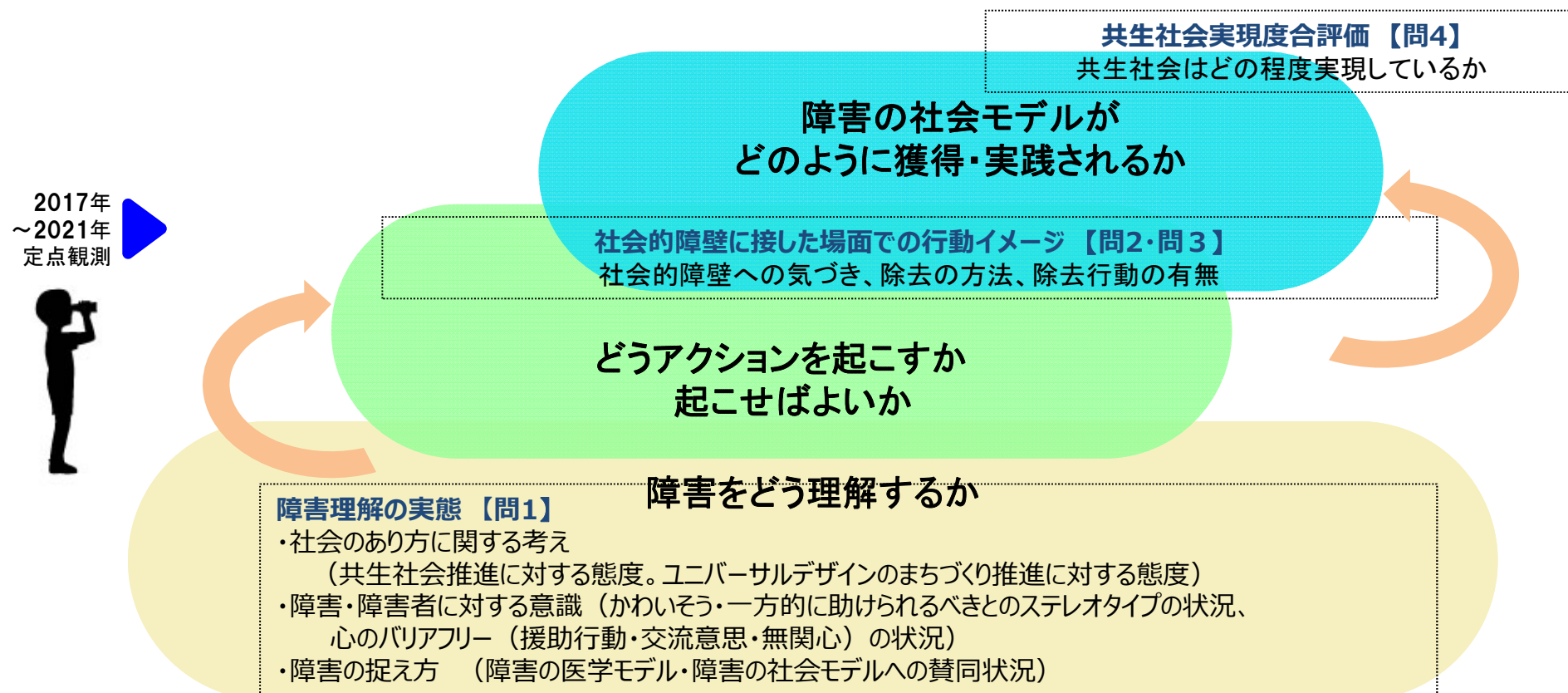
Ⅲ. 調査票の設計

調査票の設計にあたっては、内閣官房「平成28年度オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査（ユニバーサルデザインの社会づくりに向けた調査）」における試行プロジェクト審査委員会委員長の、慶應義塾大学経済学部 中野泰志教授にご助言いただきました。また、同調査でご協力をいただいた障害者団体にもご意見をお伺いし、一般財団法人全日本ろうあ連盟、全国手をつなぐ育成会連合会からいただいたご意見も踏まえて調査票を完成させました。ご協力に心より感謝申し上げます。

🕒ユニバーサルデザイン社会の実現度を測定するための3フェーズ

当調査では、ユニバーサルデザインの発想や障害の社会モデルが、人々にどのように理解され、社会に浸透しているのかを測定していきます。

測定に際して、「障害の理解」、「アクション」、「障害の社会モデルの獲得・実践」という3つのフェーズを調査票に落とし込むことを念頭に置いて、設問を設計しました。



▲ 本調査において、障害の社会モデルの定義は、内閣官房「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に基づきました。

▲ 本調査及びレポートにおいて、「障害」の表記については、2010年内閣府障がい者制度改革推進会議の「「障害」の表記に関する検討結果について」に基づき、「障害」を用いています。

Ⅲ. 調査票の設計

障害をどう理解するか

問1は、社会のあり方に関する考えや、障害者に対する感情、障害の捉え方に関するa～iの9つの意見・認識に対する適合度合いを7段階で尋ね、障害理解の実態を測定する時系列設問です。

「障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である」とする従来の障害観である**障害の医学モデル**、そして「障害のある人はかわいそうであり、一方的に助けられるべき存在」といった**ステレオタイプ**が現在どの程度残留しているか、「障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である」とする**障害の社会モデル**の考え方がどの程度浸透しているかを把握します。

障害理解の実態【問1】時系列

【すべての方に】

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思うものに○をつけてください。

	とても 思う	そう 思う	やや 思う	どちら か	あまり 思わ ない	そう 思わ ない	全く 思わ ない
(それぞれ○は1つずつ)							
a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	1	2	3	4	5	6	7
b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	1	2	3	4	5	6	7
c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	1	2	3	4	5	6	7
d) 障害のあることは、かわいそうだと思う	1	2	3	4	5	6	7
e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	1	2	3	4	5	6	7
f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	1	2	3	4	5	6	7
g) 障害の問題は、自分にはかわかりがない	1	2	3	4	5	6	7
h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である	1	2	3	4	5	6	7
i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	1	2	3	4	5	6	7

※a～f:『心のバリアフリー』に向けた汎用性のある研修プログラムの基本プログラム評価ツール『研修における評価アンケート雛形』より
※h～i:文部科学省「障害者権利条約の国内法整備に関する調査報告書」より

探索領域	探索内容	調査項目	定義・出典
社会のあり方に関する考え	共生社会推進に対する態度	a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	(内閣官房「ユニバーサルデザイン2020行動計画」より)
	ユニバーサルデザインのまちづくり推進に対する態度	b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	
障害・障害者に対する意識	ステレオタイプ「一方的に助けられるべき存在」	c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	内閣官房「ユニバーサルデザイン2020行動計画」でのステレオタイプ意識例示より
	ステレオタイプ「かわいそう」	d) 障害のあることはかわいそうだと思う *2017年では「障害のある人は、かわいそうだと思う」としていましたが、2018年に変更しました。	
	心のバリアフリー（援助行動）	e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	『心のバリアフリー』に向けた汎用性のある研修プログラムの基本プログラム評価ツール『研修における評価アンケート雛形』②より
	心のバリアフリー（交流意思）	f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	
	心のバリアフリー（無関心）	g) 障害の問題は、自分にはかわかりがない	
障害の捉え方	障害の医学モデルへの賛同状況	h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である	文部科学省「障害者権利条約の国内法整備に関する調査報告書」での定義より
	障害の社会モデルへの賛同状況	i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	内閣官房「ユニバーサルデザイン2020行動計画」での定義より

Ⅲ. 調査票の設計

どうアクションを起こすか・起こせばよいか

社会的障壁に接した場面での行動イメージ【問2】 時系列

問2は、具体的な社会的障壁のあるシチュエーション例を示し、このような状況に遭遇したときにどう考えるか、どのような行動を起こすと思うかを尋ねる時系列設問です。

選択肢1・12では無関心・無関与の状況を把握し、選択肢2・3・4では分隔発想について把握しようとしたものです*。

選択肢5・7・8はソフト面での社会的障壁解消、選択肢6はハード面での社会的障壁解消に関する方策例を示しました。

選択肢10は、社会的障壁に気づいた際に社会に対する自発行動を起こすかどうかを捉えようとして設計しました。

選択肢9は、この社会的障壁解消・改善の店舗側の責任についての考えを尋ねるもので、第2回調査に新設しました。

*第1回調査では、「車いすや乳幼児連れの人専用の買物エリアや通路、時間帯などを設けるのがよい」という選択肢を用いましたが、第2回調査では、エリアや通路、時間帯を分けて聴取しました。

*第2回調査から「すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当たり前のことなので、店はこの状況を改善する必要がある」を追加しました。

障害の社会モデルがどのように獲得・実践されるか

問2 「バーゲンセールのショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません。」
このようなとき、あなたはどのように考えますか。(○はい いくつかでも)

- 1 自分には関係ない・関わりたくない
- 2 車いすや乳幼児連れの人を混雑した場所に来ないほうがよい
- 3 一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人専用のエリアや通路を設けるのがよい
- 4 一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人たちの買い物時間帯を設けるのがよい
- 5 車いすや乳幼児連れのお客様の代わりに、店員が混雑した会場での買物を代行するのがよい
- 6 狭い通路の売り場をつくらないようにするのがよい
- 7 混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい
- 8 近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい
- 9 すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当たり前のことなので、店はこの状況を改善する必要がある
- 10 店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい
- 11 その他()
- 12 特に何も思わない

できる改善

	自分には関係ない・関わりたくない	特に何も思わない	車いすや乳幼児連れの人とは混雑した場所に来ないほうがよい	一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人専用のエリアや通路を設けるのがよい	一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人たちの買い物時間帯を設けるのがよい	車いすや乳幼児連れのお客様の代わりに、店員が混雑した会場での買物を代行するのがよい	近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい	混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい	狭い通路の売り場をつらないようにするのがよい	すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当たり前のことなので、店はこの状況を改善する必要がある	店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい	その他
選択肢番号	1	12	2	3	4	5	8	7	6	9	10	11
	無関心		分離による解決			ソフト面による解決			ハード面による解決	改善責任の認識	社会的障壁除去の為に社会への働きかけ	
自発行動												
解決策イメージ												

Ⅲ. 調査票の設計

どうアクションを起こすか・起こせばよいか

社会的障壁に接した場面での行動イメージ【問3】 新設

第2回調査では、社会的責任の所在に関する意見を捉えるためのシチュエーション例として、無人駅に関する設問を追加しました。

選択肢10・11で無関心・無関与の状況を捉えようとしているのに対し、選択肢1は社会的障壁発生の理解を捉えようとしています。

選択肢2・3は、「すべての駅を改修することは難しい」、「乗り降りが困難な人は利用をあきらめるしかない」といった、社会的障壁除去を断念し、設置者・社会の社会的責任を放置する態度を捉えようしました。

選択肢4は、設置者ではなく、近隣のボランティアによる解決への賛同を捉えようしました。

選択肢5は、社会的障壁に気づいた際に社会に対する自発行動を起こすかどうかを捉えようとして設計しました。

選択肢6・7・8は、社会的障壁に対する社会の責任、設置者の責任に関する認識を把握するために設定しました。

障害の社会モデルがどのように獲得・実践されるか

問3 「ローカル線無人駅のA駅。

この駅で電車に乗るには、駅舎の改札口から構内の踏切を渡り、島式ホーム(高さ約1メートル)まで階段を数段上らなければなりません。

電車が来る数分前に、日本語で、電車の行き先や車両数などの自動音声アナウンスがありますが、直前のアナウンスはありません。」

このような鉄道サービスについて、あなたはどのように考えますか。(〇はいくつでも)



- 1 この駅の状態では、乗り降りが困難となる人ができそう
- 2 この駅の状態には問題があるが、すべての駅を改修することは難しいので、しかたない
- 3 乗り降りが困難な人は、この駅の利用をあきらめるしかない
- 4 乗り降りが困難な人がいたら、駅員がいなくて、まわりの乗客が善意でサポートすればよい
- 5 駅のあり方について不備に気づいたら、気づいた自分が鉄道会社に改善提案をしていきたい
- 6 鉄道会社は、乗り降りが困難な乗客への対応を、乗客の「やさしさ」に頼って放置してはいけない
- 7 この駅で乗り降りが困難な人ができるのは、困難を感じる人の問題ではなくて、この駅の状態を放置して営業を続けていることに問題がある
- 8 交通サービスが誰にとっても不便や不都合なく利用できる社会にするのは、社会の責務だと思う
- 9 その他()
- 10 特に何も思わない
- 11 乗り降りが困難な人がいても、自分には関係ない・関わりたくない

特に何も思わない	乗り降りが困難な人がいても、自分には関係ない・関わりたくない	この駅の状態では、乗り降りが困難となる人ができそう	この駅の状態には問題があるが、すべての駅を改修することは難しいので、しかたない	乗り降りが困難な人は、この駅の利用をあきらめるしかない	乗り降りが困難な人がいたら、駅員がいなくて、まわりの乗客が善意でサポートすればよい	駅のあり方について不備に気づいたら、気づいた自分が鉄道会社に改善提案をしていきたい	鉄道会社は、乗り降りが困難な乗客への対応を、乗客の「やさしさ」に頼って放置してはいけない	この駅で乗り降りが困難な人ができるのは、困難を感じる人の問題ではなくて、この駅の状態を放置して営業を続けていることに問題がある	交通サービスが誰にとっても不便や不都合なく利用できる社会にするのは、社会の責務だと思う	その他
10	11	1	2	3	4	5	6	7	8	9
無関心		障壁発生理解	社会的責任 放置・断念		ボランティアによる障壁除去	自発行動 (改善提案)	社会的責任理解			

Ⅲ. 調査票の設計

どうアクションを起こすか・起こせばよいか

共生社会実現度合評価【問4】 時系列

問4は、人々が、社会ゴールである共生社会の現在の到達度をどの程度と捉えているかを測定します。

0:全く実現していない から 10:完全に実現している の10点満点（11段階）スケールで定点観測する設問です。

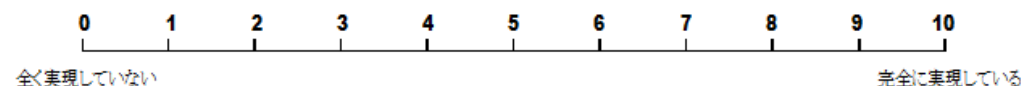
障害のある人との身近さ【問5】（回答対象者属性） 時系列

問5は、回答対象者の属性情報として、障害のある人との身近さを尋ねる設問です。

*第2回調査から「自分」、「答えたくない」の2項目を追加しました。

障害の社会モデルがどのように獲得・実践されるか

問4 いまの日本の社会は、どの程度、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を実現していると思いますか。0～10までの11段階でお答えください。（○は1つだけ）



問5 あなたの身近に障害のある人がいますか。あてはまるものを全てお答えください。（○はいくつでも）

1 家族	3 友人	5 知人	7 いない
2 自分	4 同僚	6 その他()	8 答えたくない

IV. 調査結果

Part1.データ紹介

- ※ 図表中のnとは、比率算出の基数を表すもので、原則として回答総数、又は分類別の回答数を示している。
- ※ 百分比は、小数点第2位で四捨五入して、小数点第1位までを表示した。
四捨五入の関係で、合計値が100%とならないことがある。
- ※ 図表中「ー」は、回答者が皆無であることを示す。

- ※ 以降の図表中のハッチングは次の基準に基づく。

全体に比べて+10 $^{\circ}$ イト以上

全体に比べて+5～9 $^{\circ}$ イト

全体に比べて-5～9 $^{\circ}$ イト

全体に比べて-10 $^{\circ}$ イト以上

IV-1-1. 障害理解の実態 1)社会のあり方に対する考え

①共生社会推進に対する態度

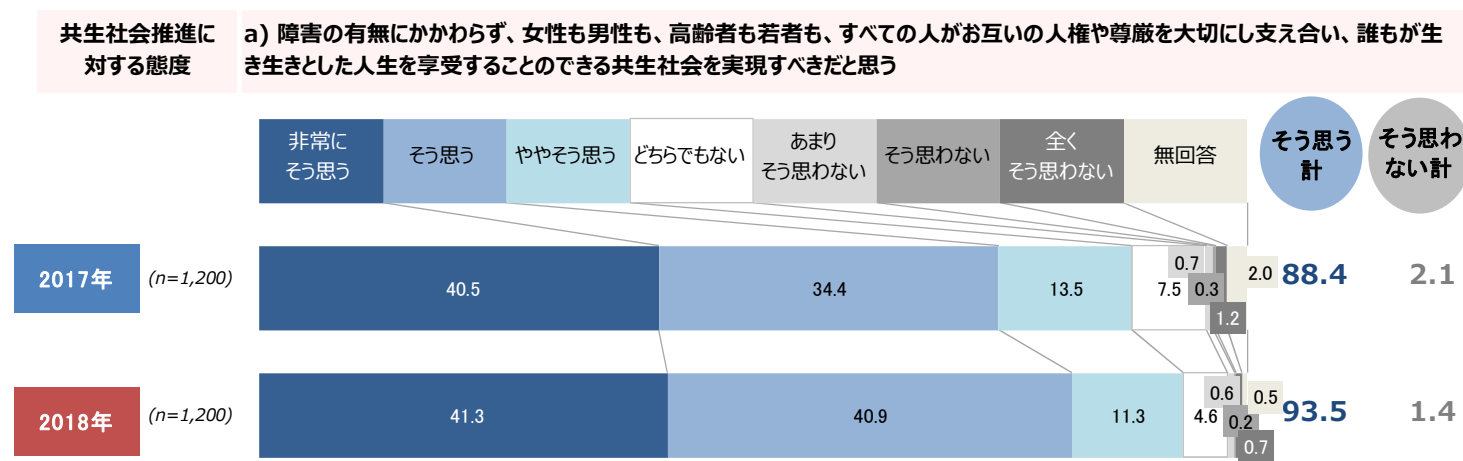
【2018年】 共生社会推進に賛同する人（そう思う計）は、全体で9割を超える（93.5%）

- ▲ 男性50代を除く全性年代層で賛同者が9割を超える。
- ▲ 男性に比べて女性のほうが賛同者がやや多い。

【時系列変化】 共生社会推進への賛同率（そう思う計）は2017年より5ポイント上昇（2017年88.4%→2018年93.5%）

- ▲ 2017年には「そう思う計」が79～83%であった男性40代以下の層で賛同率の上昇幅が大きく（9～13ポイント上昇）、2018年は9割台となった。また、2017年には8割台であった女性10代・女性50代・女性70代でも6ポイント以上上昇し、9割台となっている。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）



		そう思う 計比率 (%)			
		2017年	2018年	2017年	2018年
全体	(n=1,200)	(n=1,200)	88.4	93.5	5.1
男性小計	(n=596)	(n=592)	84.9	91.9	7.0
15～19才	(n=36)	(n=37)	83.3	91.9	8.6
20～29才	(n=76)	(n=75)	78.9	92.0	13.1
30～39才	(n=97)	(n=95)	82.5	91.6	9.1
40～49才	(n=109)	(n=111)	82.6	91.9	9.3
50～59才	(n=92)	(n=93)	88.0	87.1	-0.9
60～69才	(n=110)	(n=106)	89.1	95.3	6.2
70～79才	(n=76)	(n=75)	88.2	93.3	5.2
女性小計	(n=604)	(n=608)	91.9	95.1	3.2
15～19才	(n=35)	(n=37)	85.7	97.3	11.6
20～29才	(n=73)	(n=73)	97.3	95.9	-1.4
30～39才	(n=97)	(n=92)	93.8	96.7	2.9
40～49才	(n=105)	(n=110)	90.5	93.6	3.2
50～59才	(n=91)	(n=93)	89.0	96.8	7.8
60～69才	(n=112)	(n=115)	95.5	93.0	-2.5
70～79才	(n=91)	(n=88)	87.9	94.3	6.4

IV-1-1. 障害理解の実態 1)社会のあり方に対する考え

②ユニバーサルデザインのまちづくり推進に対する態度

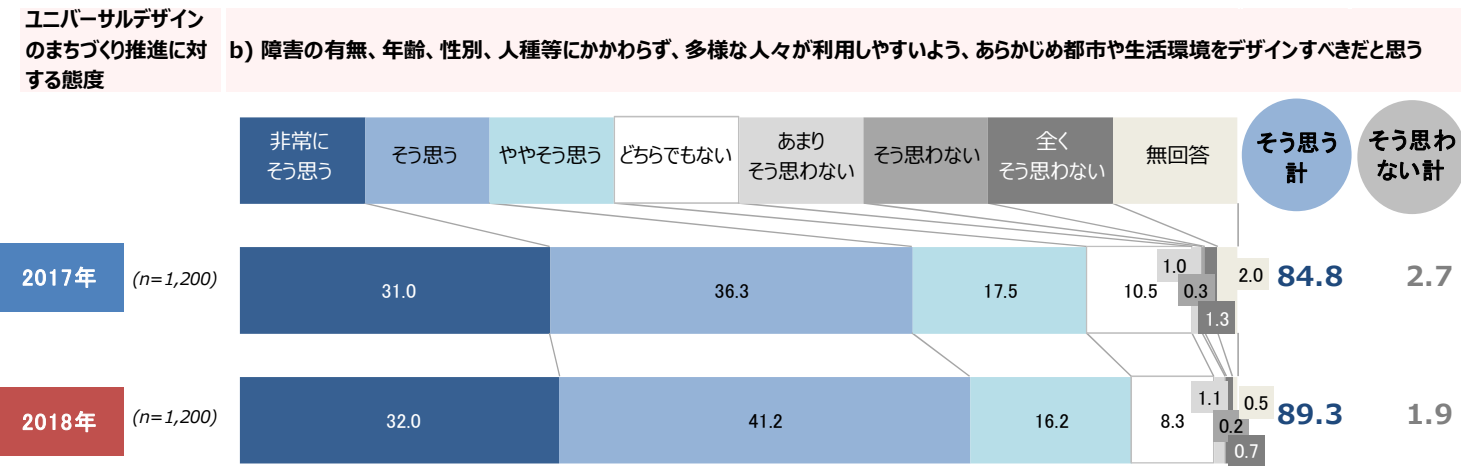
【2018年】ユニバーサルデザインのまちづくり推進に賛同する人（そう思う計）は、全体で約9割（89.3%）

▲ 男性に比べて女性のほうが賛同者が多い。

【時系列変化】ユニバーサルデザインのまちづくり推進の賛同率（そう思う計）は2017年より5ポイント上昇（2017年84.8%→2018年89.3%）

▲ 20代以下の若年男性、女性70代で賛同率が10ポイント以上上昇。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2017年	2018年	2018年-2017年
全 体	(n=1,200)	(n=1,200)	84.8	89.3	4.5
男性小計	(n=596)	(n=592)	81.7	87.2	5.5
15～19才	(n=36)	(n=37)	72.2	91.9	19.7
20～29才	(n=76)	(n=75)	77.6	90.7	13.0
30～39才	(n=97)	(n=95)	80.4	84.2	3.8
40～49才	(n=109)	(n=111)	83.5	87.4	3.9
50～59才	(n=92)	(n=93)	82.6	86.0	3.4
60～69才	(n=110)	(n=106)	83.6	89.6	6.0
70～79才	(n=76)	(n=75)	85.5	82.7	-2.9
女性小計	(n=604)	(n=608)	87.9	91.4	3.5
15～19才	(n=35)	(n=37)	85.7	94.6	8.9
20～29才	(n=73)	(n=73)	94.5	97.3	2.7
30～39才	(n=97)	(n=92)	88.7	93.5	4.8
40～49才	(n=105)	(n=110)	86.7	88.2	1.5
50～59才	(n=91)	(n=93)	87.9	95.7	7.8
60～69才	(n=112)	(n=115)	90.2	84.3	-5.8
70～79才	(n=91)	(n=88)	81.3	92.0	10.7

IV-1-1. 障害理解の実態 2)障害・障害者に対する意識

①ステレオタイプ

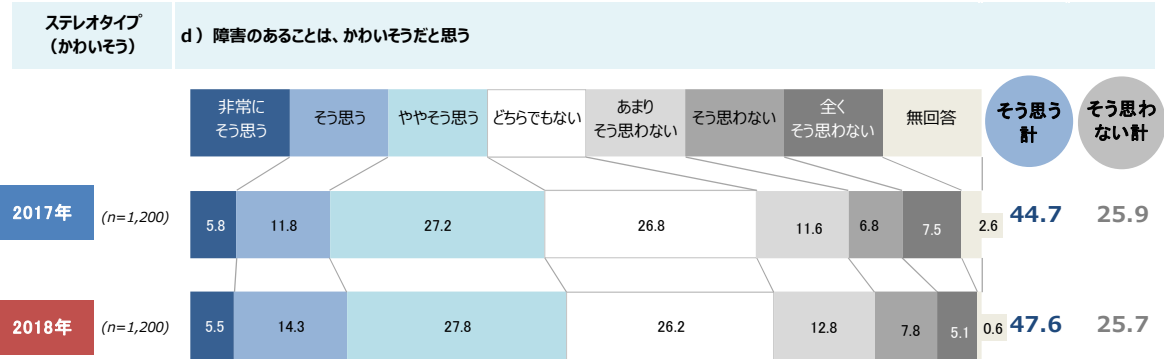
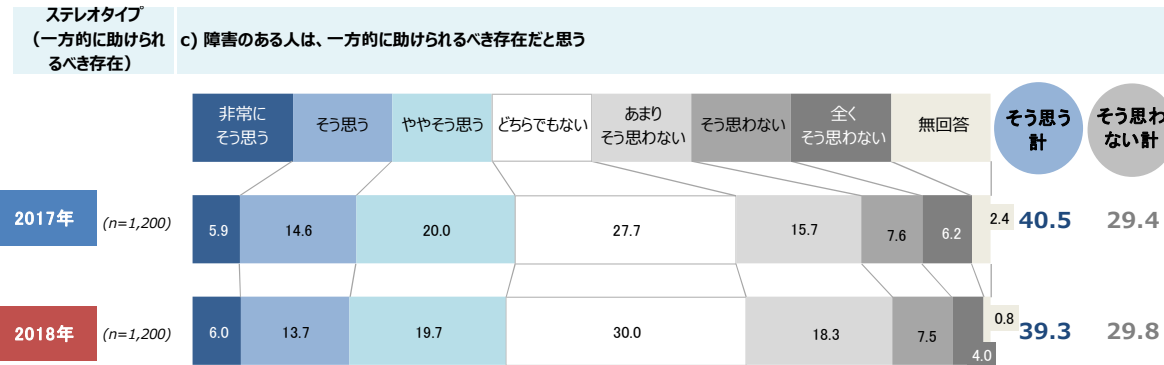
【2018年】 障害者に対するステレオタイプで「一方的に助けられるべき存在」は39.3%、「かわいそう」は47.6%（そう思う計）

- ▲ 「障害のある人は一方的に助けられるべき存在である」というステレオタイプ意見の賛同者（そう思う計）は、女性70代・20代で半数を超えて多い。男女50代では29~30%で他層より少ない。
- ▲ 「障害のある人はかわいそうだと思う」というステレオタイプ意見への賛同者（そう思う計）は、男女60代・70代・10代と女性30代で半数を超える。

【時系列変化】「一方的に助けられるべき存在」「かわいそう」という意識は、ともに2017年からほとんど変化せず

全体では変化が見られないものの、性年代別には増減が大きい属性も見られた。「一方的に助けられるべき存在」の賛同者（そう思う計）は、男性50代では10ポイント以上減少した。一方で「かわいそう」の賛同者（そう思う計）は、男女10代と女性30代では、10ポイント以上上昇した。

問 1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1 つだけ）



そう思う 計比率 (%)			c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う			d) 障害のあることはかわいそうだと思う		
	2017年	2018年	2017年	2018年	2018年-2017年	2017年	2018年	2018年-2017年
全 体	(n=1,200)	(n=1,200)	40.5	39.3	-1.2	44.7	47.6	2.9
男性小計	(n=596)	(n=592)	40.1	38.0	-2.1	48.5	47.0	-1.5
15~19才	(n=36)	(n=37)	36.1	43.2	7.1	38.9	51.4	12.5
20~29才	(n=76)	(n=75)	39.5	37.3	-2.1	42.1	42.7	0.6
30~39才	(n=97)	(n=95)	34.0	37.9	3.9	33.0	34.7	1.7
40~49才	(n=109)	(n=111)	34.9	36.0	1.2	50.5	43.2	-7.2
50~59才	(n=92)	(n=93)	42.4	29.0	-13.4	52.2	43.0	-9.2
60~69才	(n=110)	(n=106)	43.6	41.5	-2.1	52.7	59.4	6.7
70~79才	(n=76)	(n=75)	50.0	45.3	-4.7	65.8	57.3	-8.5
女性小計	(n=604)	(n=608)	40.9	40.6	-0.3	40.9	48.2	7.3
15~19才	(n=35)	(n=37)	45.7	40.5	-5.2	37.1	51.4	14.2
20~29才	(n=73)	(n=73)	42.5	50.7	8.2	41.1	41.1	0.0
30~39才	(n=97)	(n=92)	30.9	34.8	3.9	35.1	51.1	16.0
40~49才	(n=105)	(n=110)	35.2	35.5	0.2	40.0	42.7	2.7
50~59才	(n=91)	(n=93)	37.4	30.1	-7.3	38.5	46.2	7.8
60~69才	(n=112)	(n=115)	47.3	40.9	-6.5	43.8	53.0	9.3
70~79才	(n=91)	(n=88)	50.5	55.7	5.1	48.4	52.3	3.9

*2017年に用いた「障害のある人は、かわいそうだと思う」を、2018年に「障害のあることは、かわいそうだと思う」に変更しました。

IV-1-1. 障害理解の実態 2)障害・障害者に対する意識

②心のバリアフリー（援助行動・交流意思）

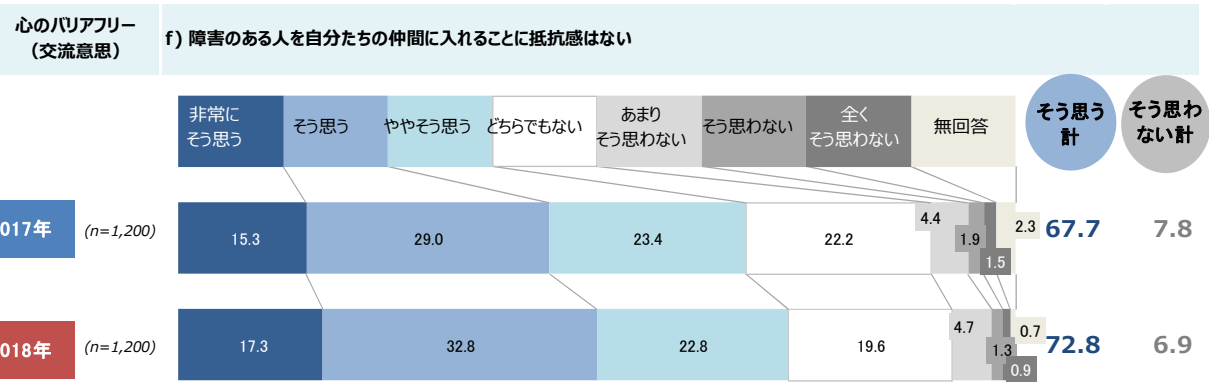
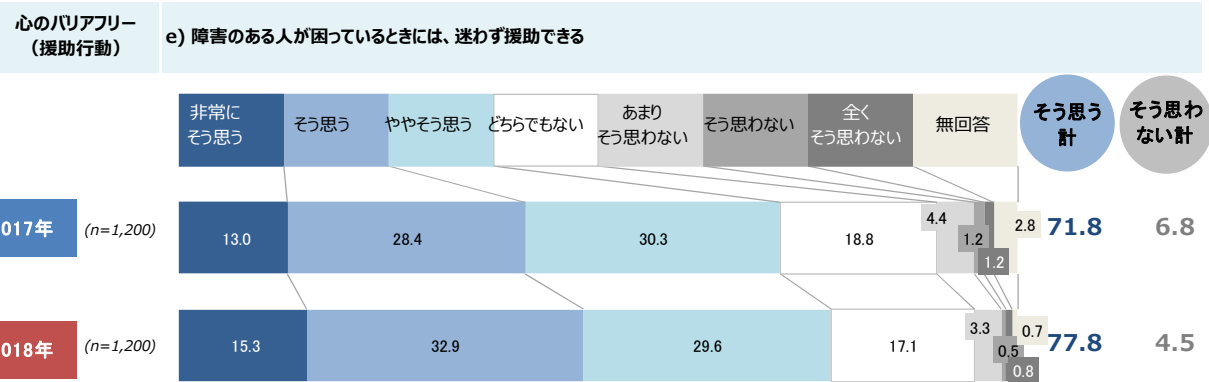
【2018年】「迷わず援助できる」、「自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない」はいずれも7割台（そう思う計）

- ▲「障害のある人が困っている時は迷わず援助できる」との回答が8割を超えて高いのは、男性60代・20代、女性は20代以外の各年代層。
- ▲「障害のある人を仲間に入れることに抵抗感はない」との回答が8割を超えて高いのは、男女10代。
- ▲ 男性30代・50代は、他層に比べ、援助行動が低めで、かつ障害者を仲間に入れることの抵抗感がない人が少ない。

【時系列変化】「迷わず援助できる」、「自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない」は、ともに2017年より5～6ポイント増加（そう思う計「迷わず援助できる」2017年71.8%→2018年77.8%、「自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない」2017年67.7%→2018年72.8%）

- ▲「障害のある人が困っている時は迷わず援助できる」は、男性10代・20代、女性10代の若年層で20ポイント前後上昇。
- ▲「障害のある人を仲間に入れることに抵抗感はない」は、男性10代では30ポイント以上、男性20代・女性10代では10ポイント以上上昇。
- ▲ 若年層で上昇傾向にある点が2つに共通している。

問 1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）



そう思う 計比率 (%)			e) 障害のある人が困っていると きには、迷わず援助できる			f) 障害のある人を自分たちの仲 間に入れることに抵抗感はない		
	2017年	2018年	2017年	2018年	2018年- 2017年	2017年	2018年	2018年- 2017年
全 体	(n=1,200)	(n=1,200)	71.8	77.8	6.0	67.7	72.8	5.2
男性小計	(n=596)	(n=592)	68.6	73.8	5.2	63.9	70.4	6.5
15～19才	(n=36)	(n=37)	55.6	75.7	20.1	50.0	83.8	33.8
20～29才	(n=76)	(n=75)	61.8	80.0	18.2	53.9	69.3	15.4
30～39才	(n=97)	(n=95)	56.7	62.1	5.4	56.7	66.3	9.6
40～49才	(n=109)	(n=111)	71.6	73.0	1.4	65.1	73.0	7.8
50～59才	(n=92)	(n=93)	72.8	68.8	-4.0	67.4	65.6	-1.8
60～69才	(n=110)	(n=106)	80.9	84.9	4.0	76.4	69.8	-6.6
70～79才	(n=76)	(n=75)	69.7	73.3	3.6	65.8	73.3	7.5
女性小計	(n=604)	(n=608)	74.8	81.6	6.7	71.4	75.2	3.8
15～19才	(n=35)	(n=37)	65.7	86.5	20.8	68.6	81.1	12.5
20～29才	(n=73)	(n=73)	64.4	72.6	8.2	64.4	72.6	8.2
30～39才	(n=97)	(n=92)	69.1	80.4	11.4	78.4	75.0	-3.4
40～49才	(n=105)	(n=110)	67.6	81.8	14.2	70.5	73.6	3.2
50～59才	(n=91)	(n=93)	76.9	82.8	5.9	74.7	79.6	4.8
60～69才	(n=112)	(n=115)	89.3	83.5	-5.8	71.4	74.8	3.4
70～79才	(n=91)	(n=88)	81.3	84.1	2.8	68.1	72.7	4.6

IV-1-1. 障害理解の実態 2)障害・障害者に対する意識

③心のバリアフリー（無関心）

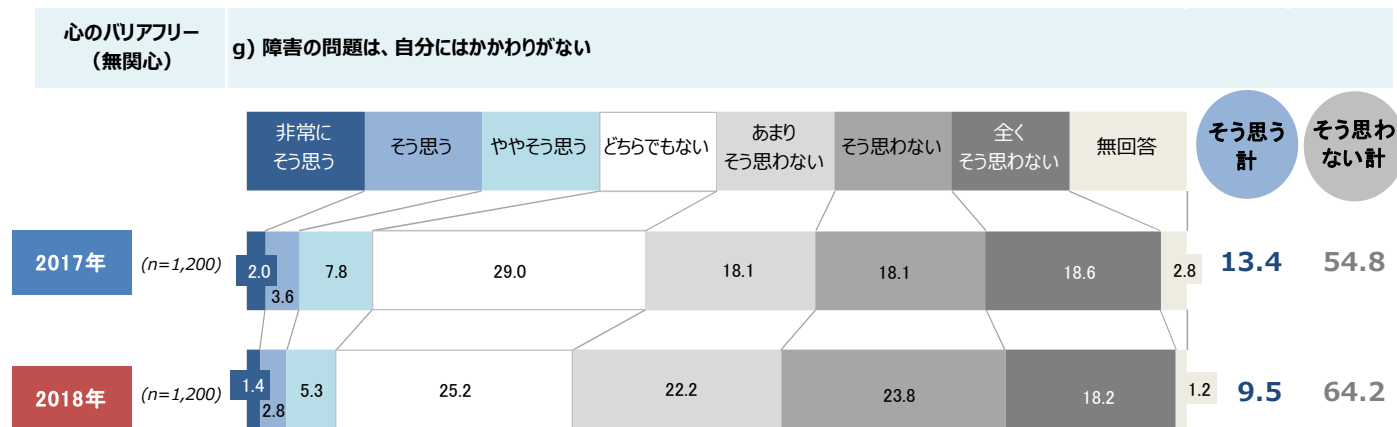
【2018年】「障害の問題は、自分にはかかわりがない」と思う無関心層は全体の約1割（そう思う計 9.5%）

▲ 「障害の問題は、自分にはかかわりがない」との無関心の意識は、女性20代で2割を超える。一方女性50～60代は4%前後と低め。

【時系列変化】 無関心層は2017年に比べて微減（そう思う計 2017年13.4%→2018年9.5%）

▲ 男性10代、女性10代・30代で「そう思う計」が10ポイント以上低下し、無関心層が減少している。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2017年	2018年	2018年-2017年
全 体	(n=1,200)	(n=1,200)	13.4	9.5	-3.9
男性小計	(n=596)	(n=592)	15.8	10.8	-5.0
15～19才	(n=36)	(n=37)	30.6	10.8	-19.7
20～29才	(n=76)	(n=75)	18.4	9.3	-9.1
30～39才	(n=97)	(n=95)	17.5	13.7	-3.8
40～49才	(n=109)	(n=111)	16.5	9.9	-6.6
50～59才	(n=92)	(n=93)	14.1	11.8	-2.3
60～69才	(n=110)	(n=106)	11.8	10.4	-1.4
70～79才	(n=76)	(n=75)	10.5	9.3	-1.2
女性小計	(n=604)	(n=608)	11.1	8.2	-2.9
15～19才	(n=35)	(n=37)	22.9	10.8	-12.0
20～29才	(n=73)	(n=73)	13.7	20.5	6.8
30～39才	(n=97)	(n=92)	19.6	7.6	-12.0
40～49才	(n=105)	(n=110)	12.4	8.2	-4.2
50～59才	(n=91)	(n=93)	5.5	4.3	-1.2
60～69才	(n=112)	(n=115)	4.5	3.5	-1.0
70～79才	(n=91)	(n=88)	7.7	8.0	0.3

IV-1-1. 障害理解の実態 3)障害の捉え方

①障害の医学モデルへの賛同状況

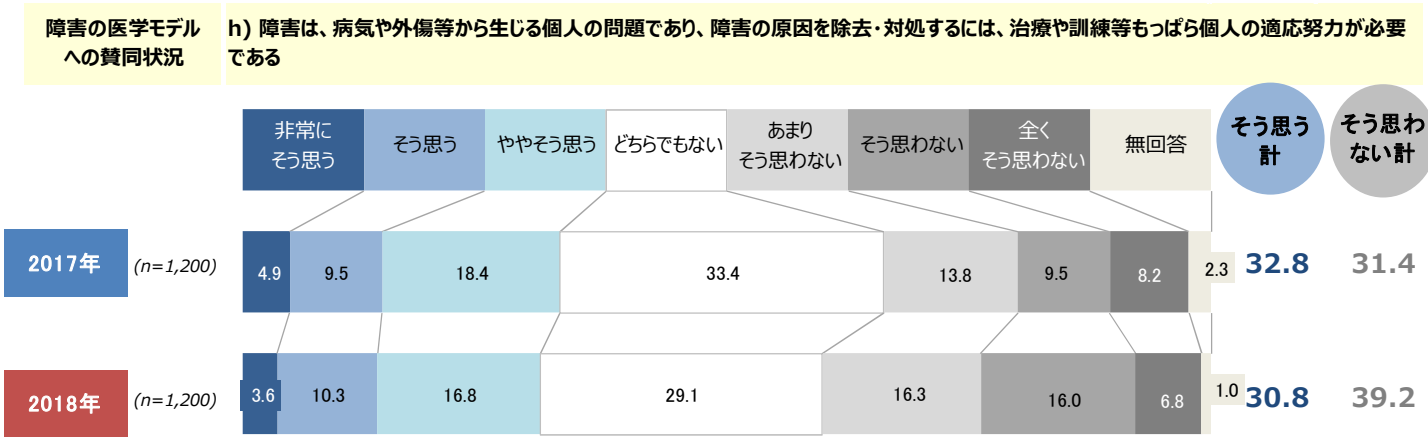
【2018年】 障害をもつばら個人の問題に帰結させる障害の医学モデルの賛同者（そう思う計）は約3割（30.8%）

▲ 医学モデルの賛同者は、男女ともに70代では4割を超えて他層より多い。他方、女性50代では2割を下回っている（18.3%）。

【時系列変化】 医学モデル賛同者は2017年からほとんど変化せず

▲ 女性10代・70代ではそう思う計が8～10ポイント増加している。男性10代・40代では9～10ポイント減少している。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2017年	2018年	2018年-2017年
全体	(n=1,200)	(n=1,200)	32.8	30.8	-2.1
男性小計	(n=596)	(n=592)	36.6	31.6	-5.0
15～19才	(n=36)	(n=37)	38.9	29.7	-9.2
20～29才	(n=76)	(n=75)	34.2	36.0	1.8
30～39才	(n=97)	(n=95)	36.1	29.5	-6.6
40～49才	(n=109)	(n=111)	33.9	24.3	-9.6
50～59才	(n=92)	(n=93)	33.7	29.0	-4.7
60～69才	(n=110)	(n=106)	38.2	34.9	-3.3
70～79才	(n=76)	(n=75)	43.4	40.0	-3.4
女性小計	(n=604)	(n=608)	29.1	29.9	0.8
15～19才	(n=35)	(n=37)	22.9	32.4	9.6
20～29才	(n=73)	(n=73)	26.0	30.1	4.1
30～39才	(n=97)	(n=92)	25.8	23.9	-1.9
40～49才	(n=105)	(n=110)	30.5	26.4	-4.1
50～59才	(n=91)	(n=93)	25.3	18.3	-7.0
60～69才	(n=112)	(n=115)	29.5	33.0	3.6
70～79才	(n=91)	(n=88)	39.6	47.7	8.2

IV-1-1. 障害理解の実態 3)障害の捉え方

②障害の社会モデルへの賛同状況

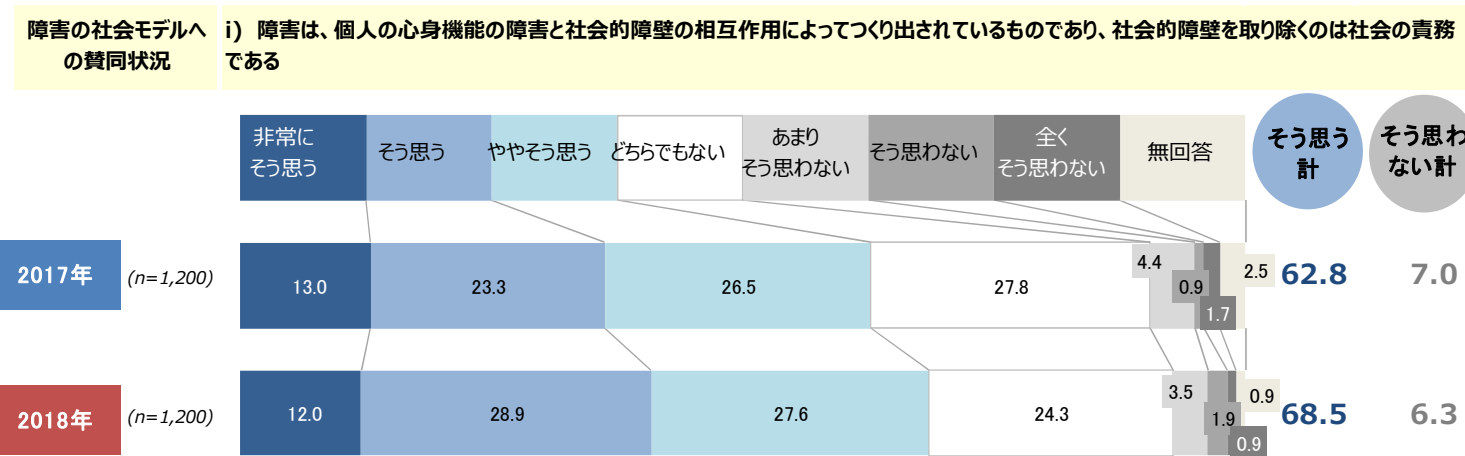
【2018年】 障害の社会モデルの賛同者（そう思う計）は約7割（68.5%）

▲ いずれの性年代層でも賛同者は6割を超えるが、男女ともに60代、男性70代では賛同者が7割を超え、他層に比べて高い。

【時系列変化】 障害の社会モデルの賛同率は、2017年から上昇（そう思う計 2017年62.8%→2018年68.5%、6ポイント増加）

▲ 男女ともに10代・30代では、賛同者が10ポイント以上増加したが、男性70代では8ポイント減少した。

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。（1つだけ）



そう思う 計比率 (%)

	2017年	2018年	2017年	2018年	2018年- 2017年
全 体	(n=1,200)	(n=1,200)	62.8	68.5	5.8
男性小計	(n=596)	(n=592)	64.3	67.9	3.6
15～19才	(n=36)	(n=37)	47.2	62.2	14.9
20～29才	(n=76)	(n=75)	56.6	65.3	8.8
30～39才	(n=97)	(n=95)	49.5	61.1	11.6
40～49才	(n=109)	(n=111)	63.3	69.4	6.1
50～59才	(n=92)	(n=93)	70.7	68.8	-1.8
60～69才	(n=110)	(n=106)	73.6	73.6	-0.1
70～79才	(n=76)	(n=75)	78.9	70.7	-8.3
女性小計	(n=604)	(n=608)	61.3	69.1	7.8
15～19才	(n=35)	(n=37)	51.4	62.2	10.7
20～29才	(n=73)	(n=73)	53.4	61.6	8.2
30～39才	(n=97)	(n=92)	54.6	69.6	14.9
40～49才	(n=105)	(n=110)	61.9	69.1	7.2
50～59才	(n=91)	(n=93)	63.7	69.9	6.2
60～69才	(n=112)	(n=115)	70.5	77.4	6.9
70～79才	(n=91)	(n=88)	63.7	65.9	2.2

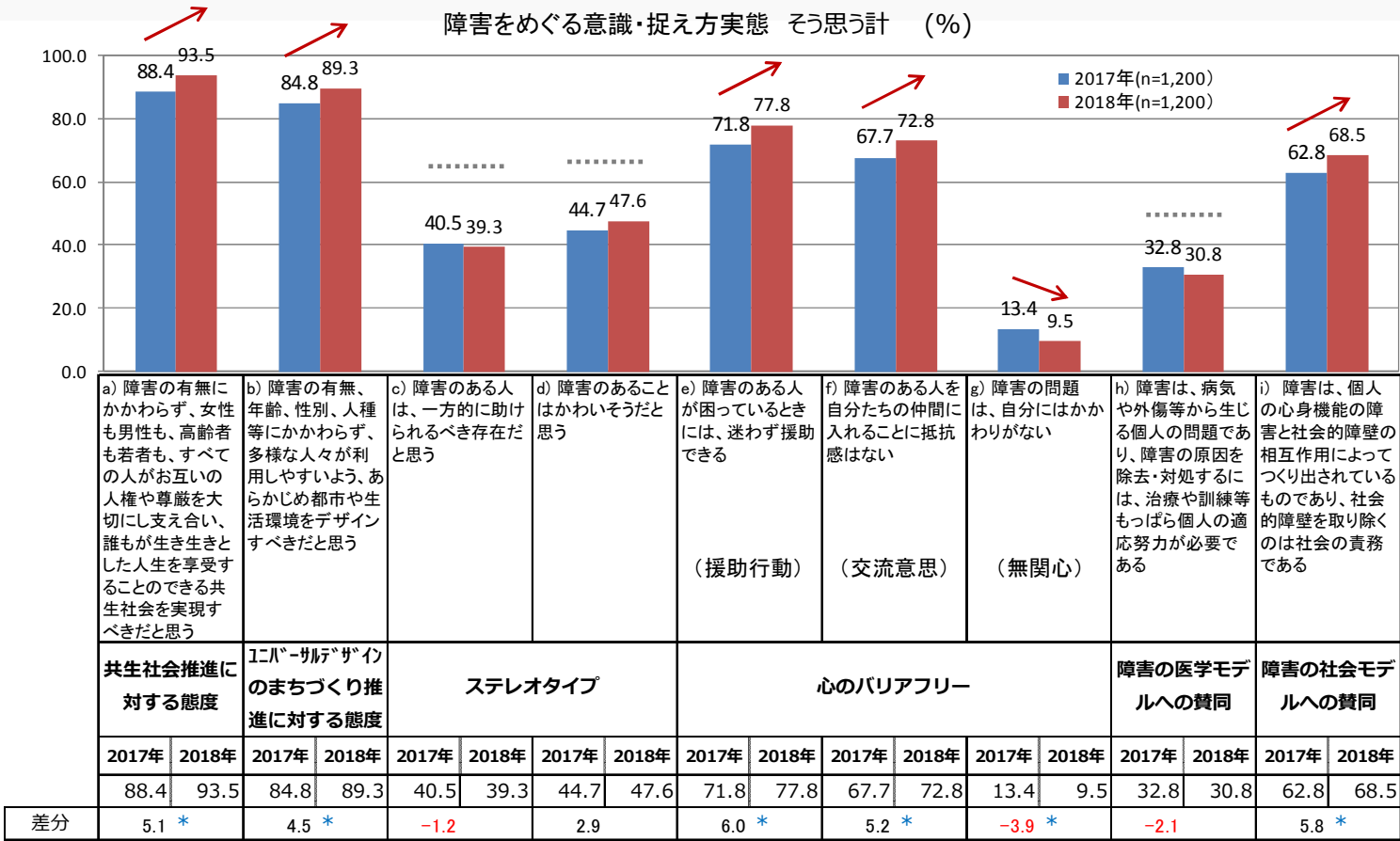
IV-1-1. 障害理解の実態 4) 障害をめぐる意識・捉え方 時系列変化まとめ

障害をめぐる意識・捉え方実態について、2017年から2018年にかけての変化を整理すると以下の通り。

- 1年間で変化したもの

【上昇】 共生社会推進に対する賛同、ユニバーサルデザインのまちづくりに対する賛同、心のバリアフリー（援助意識、交流意思）、障害の社会モデルへの賛同
【低下】 心のバリアフリー（無関心）
- 変化しなかったもの

ステレオタイプ（「一方的に助けられるべき存在」「障害があることはかわいそう」）
障害の医学モデルへの賛同
- 2018年において、共生社会推進、ユニバーサルデザインのまちづくり推進への賛同率は9割前後、困っている障害者に対する援助、障害がある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感がないとする回答率はともに7割台、障害の社会モデルへの賛同は7割弱と高い。これらはいずれも、2017年～2018年の1年間で有意に増加し、ユニバーサルデザイン社会を実現しようとする人々の意識、心のバリアフリー意識は高まってきているように見える。また、無関心率は2018年は約1割で、2017年～2018年で4ポイント減少した。
 - 他方、2018年・2017年において、「障害のある人は一方的に助けられるべき存在」、「かわいそう」とするステレオタイプは依然として4割～5割弱程度存在し、この1年で減少することはなかった。また、障害の医学モデルに対する賛同率は変動は見られず、約3割程度のまま推移している。



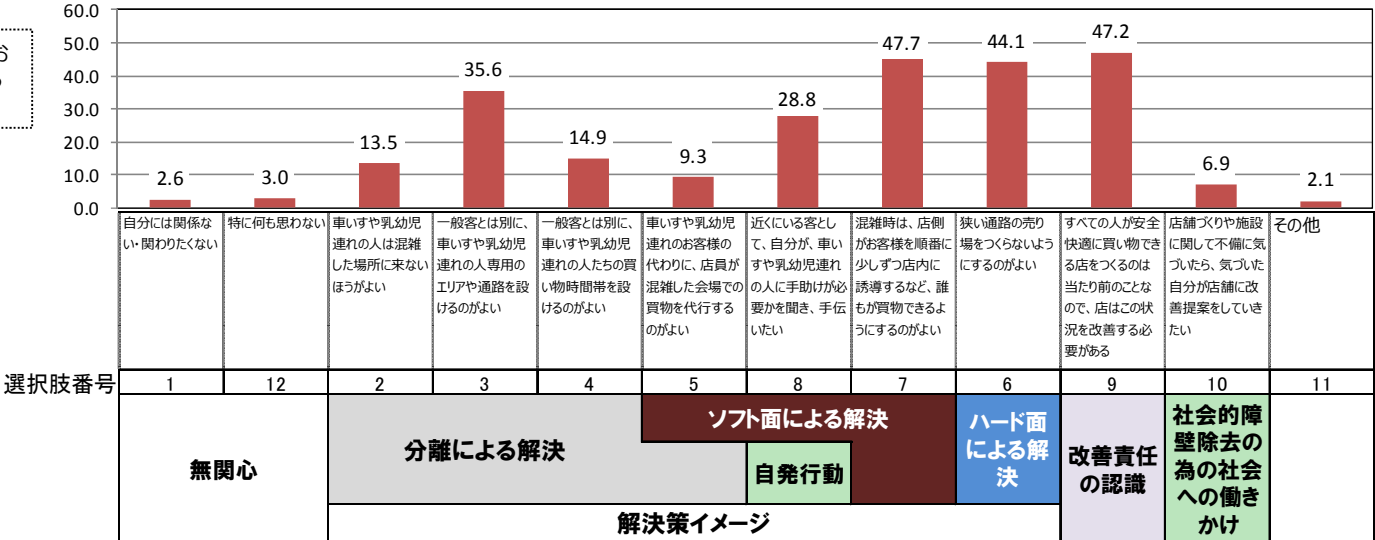
IV-1-2. 社会的障壁に接した場面での行動イメージ 1)バーゲンセール会場

【2018年】改善責任の認識：混雑して買い物できない状況をつくった設置者（店）の改善責任(9)は約半数（47.2%）に認識されている
解決方法イメージ：「狭い売り場を作らない」(6)とのハード面での解決方法、「順番に誘導する」(7)とのソフト面での解決方法が、ともに4割台で多い
「近くにいる客として、自分が手伝いたい」(8)との自発行動による解決は、約3割（28.8%）に発現
「専用のエリアや通路を設ける」(3)といった分離による解決策を考える人は4割弱（35.6%）存在している
社会的障壁除去のための社会への働きかけ：「不備に気づいた自分が店舗に改善提案していきたい」(10)と、社会に働きかける行動を起こす意思のある人は1割に満たず（6.9%）

- 女性20代・50代は「狭い売り場を作らない」(6)、「順番に誘導する」(7)というソフト・ハード面での解決意見が5割を超え、他層に比べて多い。
- 自分が手助けすると自発行動(8)は、女性30代・60代が他層に比べて多い。
- 分離による解決について、「専用のエリアや通路を設ける」(3)は男性30代、女性20代以下及び50代で4割を超える。「別の買い物時間帯を設ける」(4)、「混雑した場所に来ないほうがよい」(2)はともに全体では1割台であるが、女性60代では2割を超えて高め。

問2 「バーゲンセールのショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません。」このようなとき、あなたはどのように考えますか。（〇はいくつでも）

2018年



全 体		(n=1,200)	2.6	3.0	13.5	35.6	14.9	9.3	28.8	47.7	44.1	47.2	6.9	2.1
男性小計		(n=592)	4.2	4.4	13.5	34.5	14.0	10.5	25.3	43.4	41.9	42.6	7.3	1.4
	15~19才	(n=37)	-	5.4	13.5	29.7	2.7	10.8	27.0	48.6	27.0	37.8	5.4	5.4
	20~29才	(n=75)	5.3	4.0	20.0	38.7	16.0	14.7	28.0	36.0	45.3	36.0	1.3	1.3
	30~39才	(n=95)	6.3	2.1	14.7	42.1	18.9	14.7	20.0	46.3	42.1	48.4	5.3	-
	40~49才	(n=111)	3.6	4.5	13.5	30.6	9.9	9.9	27.0	48.6	45.0	37.8	9.0	-
	50~59才	(n=93)	5.4	6.5	12.9	32.3	18.3	9.7	31.2	35.5	46.2	33.3	8.6	1.1
	60~69才	(n=106)	2.8	4.7	8.5	31.1	10.4	6.6	19.8	45.3	37.7	50.0	7.5	0.9
	70~79才	(n=75)	4.0	4.0	13.3	36.0	17.3	8.0	26.7	44.0	41.3	52.0	12.0	4.0
女性小計		(n=608)	1.0	1.6	13.5	36.7	15.8	8.1	32.2	51.8	46.2	51.6	6.6	2.8
	15~19才	(n=37)	-	2.7	8.1	45.9	10.8	8.1	29.7	56.8	37.8	40.5	-	2.7
	20~29才	(n=73)	1.4	-	13.7	45.2	13.7	13.7	20.5	56.2	53.4	50.7	1.4	4.1
	30~39才	(n=92)	-	2.2	12.0	28.3	14.1	8.7	34.8	51.1	44.6	52.2	6.5	3.3
	40~49才	(n=110)	0.9	2.7	10.0	33.6	14.5	8.2	31.8	50.9	48.2	48.2	3.6	3.6
	50~59才	(n=93)	1.1	-	11.8	40.9	8.6	4.3	31.2	59.1	57.0	63.4	10.8	2.2
	60~69才	(n=115)	1.7	1.7	21.7	37.4	21.7	4.3	39.1	51.3	41.7	52.2	9.6	1.7
	70~79才	(n=88)	1.1	2.3	12.5	33.0	22.7	11.4	33.0	40.9	37.5	47.7	9.1	2.3

IV-1-2. 社会的障壁に接した場面での行動イメージ 1)バーゲンセール会場

1年間で変化したもの

【上昇】自身の援助意欲「近くにいる客として手伝いたい」(24.8→28.8%)

【低下】無関心「特に何も思わない」(7.4→3.0%)

分離による解決「車いすや乳幼児連れの人混雑した場所に来ないほうがよい」(17.3→13.5%)

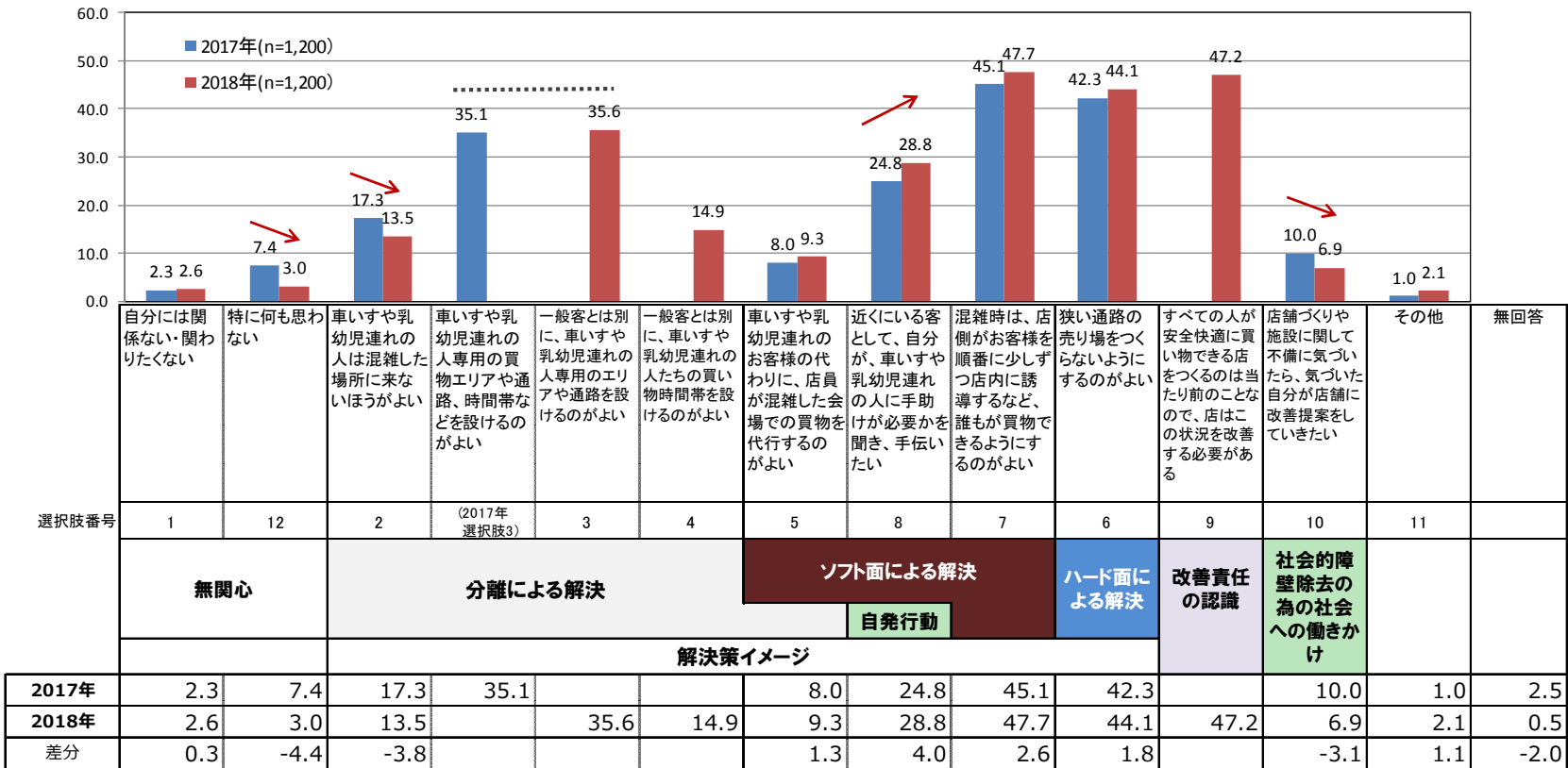
社会的障壁除去のため社会への働きかけ「不備に気づいたら店舗に改善提案をしていきたい」(10.0→6.9%)

変化しなかったもの

分離による解決「専用エリアや通路を設けるのがよい」(35→36%)

- ▲ 自身の援助意欲「近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい」(8)は上昇、無関心「特に何も思わない」(12)は低下し、自分が単独で動く範囲での行動意欲については高まりがみられる。その一方で、「店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい」(10)との社会的障壁除去のために社会や他者に働きかける範囲にまで踏み込んだ社会的行動意欲は低下が見られた。
- ▲ 分離による解決意見について、「車いすや乳幼児連れの人混雑した場所に来ないほうがよい」(2)は低下したが、「一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人専用のエリアや通路を設けるのがよい」(3)は35~36%の比較的高いレベルで横ばいとなっており、ユニバーサルデザインの発想はまだ十分に浸透できておらず、分離発想と混在している状況が続いている。

問2 「バーゲンセールのショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません。」このようなとき、あなたはどのように考えますか。(〇はいくつでも)



IV-1-2. 社会的障壁に接した場面での行動イメージ 2)無人駅

2018年調査では、社会的障壁が発生しているシチュエーションとして無人駅を例に、社会的障壁を解決する責任の所在や、社会的障壁を取り除くための行動に関する考え方等を新規に聴取した。

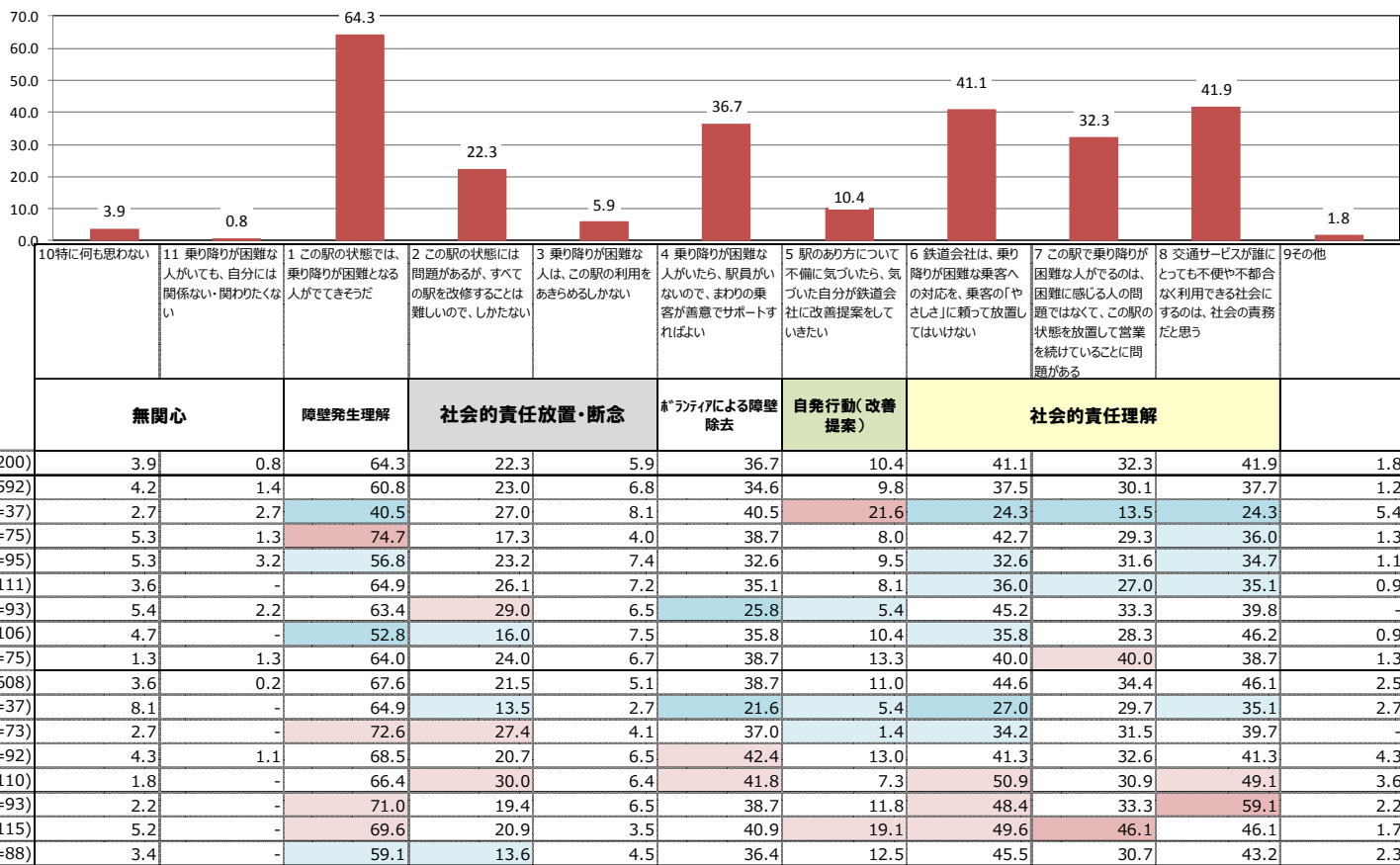
【2018年】困難発生(1)の認識は6割台と高い（64.3%）

社会やサービス提供者の改善責任(6・7・8)は3～4割が認識する一方、「まわりの乗客が善意でサポートすればよい」((4) 36.7%) もほぼ同程度「しかたない」(2)は2割（22.3%）、「あきらめるしかない」(3)は5.9%

- ▲「この駅の状態では、乗り降りが困難となる人がでてきそうだ」(1)との気づきは6割を超える（64.3%）。特に20代男女、女性50代では7割を超え、他層に比べて高い。
- ▲「交通サービスが誰にとっても不便や不都合なく利用できる社会にするのは社会の責務」(8)との意見は41.9%で、社会的な責任を4割の人が認識している。特に40代・50代女性で高い。
- ▲「鉄道会社は、乗り降りが困難な乗客への対応を、乗客の「やさしさ」に頼って放置してはいけない」(6)は41.1%、「この駅で乗り降りが困難な人がでるのは、困難に感じる人の問題ではなく、この駅の状態を放置して営業を続けていることに問題がある」(7)は32.3%と、サービス提供者側の改善責任を表明している人は3～4割にのぼる。他方で「乗り降りが困難な人がいたら、駅員がいないので、まわりの乗客が善意でサポートすればよい」(4)との回答は36.7%であり、善意による解決意見はサービス提供者の改善責任とほぼ同数となっている。
- ▲「この駅の状態には問題があるが、すべての駅を改修することは難しいので、しかたない」(2)は22.3%、「乗り降りが困難な人は、この駅の利用をあきらめるしかない」(3)とする人は5.9%。女性40代はサービス提供者の改善責任や社会的責任を認識している人が多い一方で、「しかたない」(2)とする人も多くなっている。

問3 「ローカル線無人駅のA駅。
この駅で電車に乗るには、駅舎の改札口から構内の踏切を渡り、島式ホーム（高さ約1メートル）まで階段を数段上がらなければなりません。
電車が来る数分前に、日本語で、電車の行き先や車両数などの自動音声アナウンスがありますが、直前のアナウンスはありません。」
このような鉄道サービスについて、あなたはどのように考えますか。（○はいくつでも）

2018年



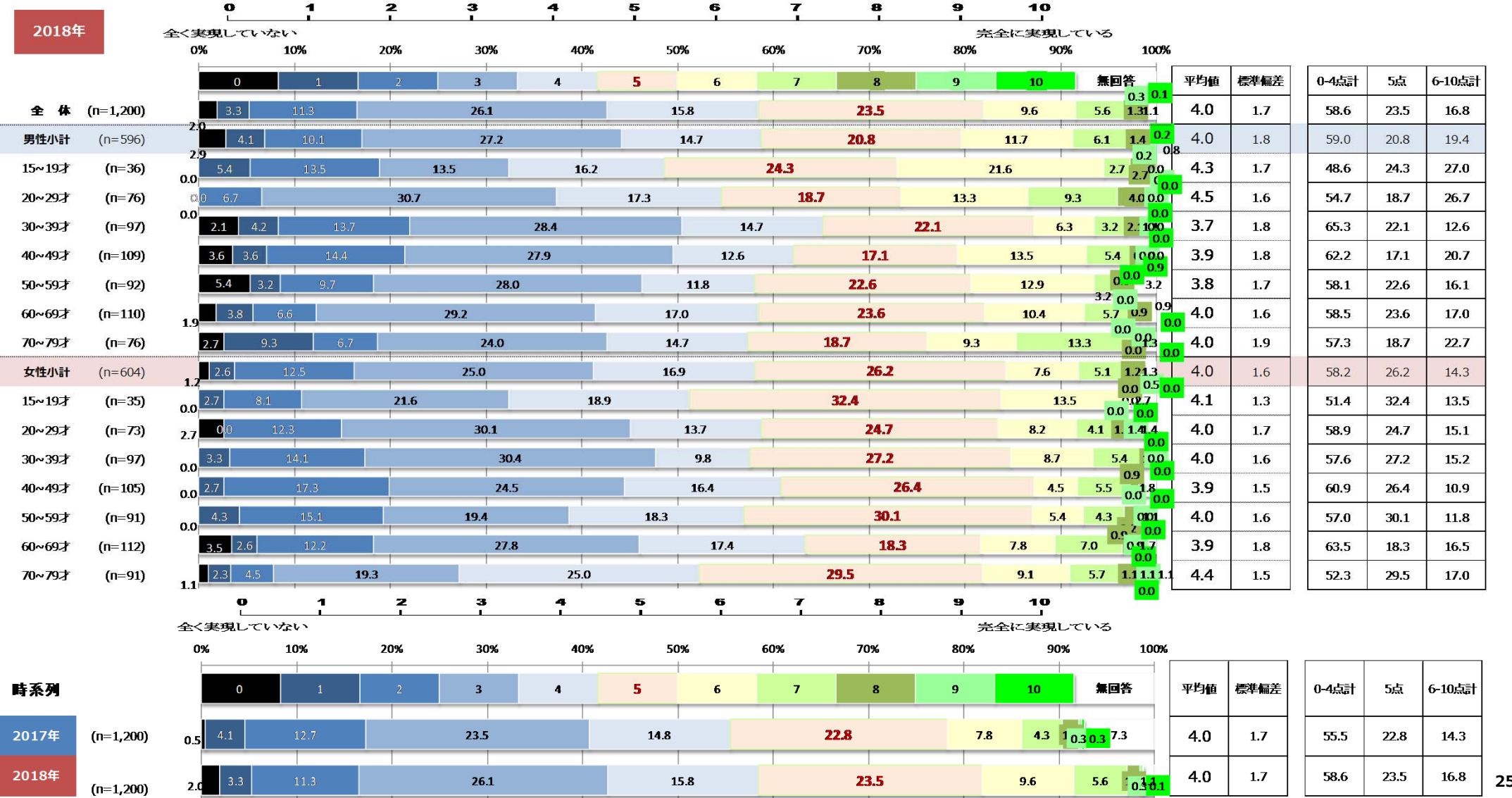
IV-1-3. 共生社会の実現度合評価

【2018年】 2018年の日本の共生社会実現度合(平均値) は10点満点中4.0点

▲ 男性20代以下及び女性70代で実現レベル評価が高め。

【時系列変化】 共生社会実現への賛同者(問1)は増加したが(2017年88.4%→2018年93.5%)、共生社会が実現しているとの認識は低いまま変化せず(平均値2017年4.0点→2018年4.0点)

問3 いまの日本の社会は、どの程度、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を実現していると思いますか。0～10までの11段階でお答えください。(○は1つだけ)



IV. 調查結果

Part2: 分析

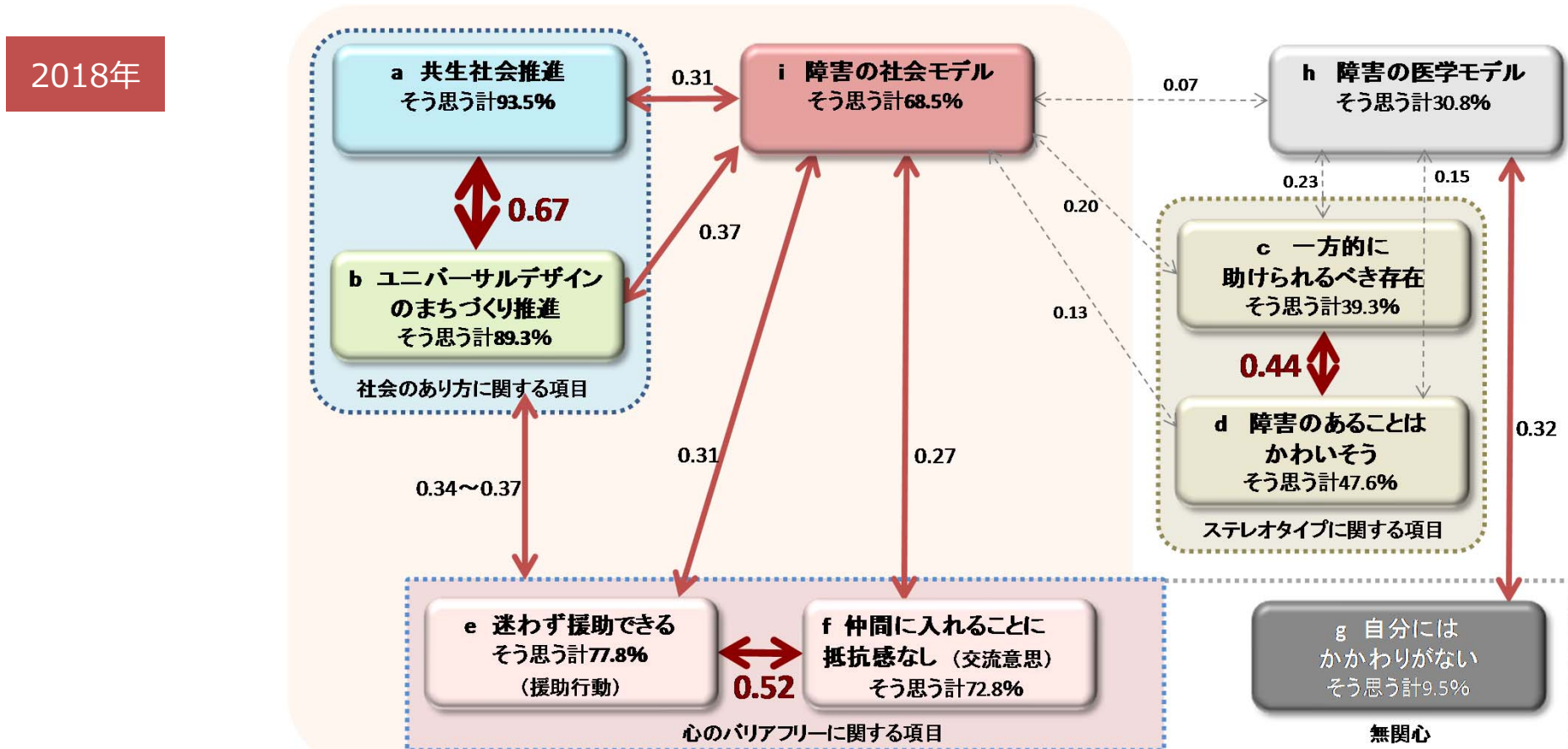
IV-2-1. 障害をめぐる各意識間の関係性

障害をめぐるa～iの9つの意見・認識に対する適合評価（7段階評価）を用いて相関係数（単相関）を算出し、各意識の関係性を整理した。

【2018年】 障害の社会モデルへの賛同は、共生社会、ユニバーサルデザインのまちづくりに対する推進賛同意識(0.31～0.37)とやや相関あり
援助行動、交流意思ともやや相関あり(0.31～0.27)
障害の医学モデルへの賛同とは相関なし(0.07。負の相関もなし)

障害の医学モデルへの賛同は、無関心（障害の問題は自分にはかわりがない）とやや相関あり(0.32)

- ▲ 共生社会推進(a)とユニバーサルデザイン推進(b)は0.67で、強い相関が見られる。
- ▲ 「障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる」(e)と「障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない」(f)は0.52の相関が見られ、心のバリアフリーを表すものとして関係性が強いことが確認できる。
- ▲ 「障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う」(c)と「障害のあることはかわいそうだと思う」(d)は0.44の相関が見られ、2つのステレオタイプには比較的關係性が強いことが確認できる。



(ペアワイズ法ピアソン相関を利用。相関係数0.7以上:強い相関あり、0.4～0.7:相関あり、0.2～0.4:弱い相関あり、0.2未満:ほとんど相関なしとして捉えた。)

IV-2-1. 障害をめぐる各意識間の関係性

▲ 各変数間の相関は、2017年、2018年で概ね同傾向である。

2018年		問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。	a	b	c	d	e	f	g	h	i
社会のあり方に関する考え	共生社会推進に対する態度	a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	1.00	0.67	0.19	0.07	0.37	0.34	-0.21	-0.10	0.31
	「バリアフリー」のまちづくり推進に対する態度	b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	0.67	1.00	0.22	0.09	0.36	0.35	-0.13	-0.02	0.37
障害・障害者に対する意識	ステレオタイプ	c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	0.19	0.22	1.00	0.44	0.29	0.17	0.17	0.23	0.20
		d) 障害のある人はかわいそうだと思う	0.07	0.09	0.44	1.00	0.12	-0.01	0.12	0.15	0.13
	心のバリアフリー	e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	0.37	0.36	0.29	0.12	1.00	0.52	-0.08	0.07	0.31
		f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	0.34	0.35	0.17	-0.01	0.52	1.00	-0.15	0.01	0.27
		g) 障害の問題は、自分にはかわからない	-0.21	-0.13	0.17	0.12	-0.08	-0.15	1.00	0.32	-0.07
障害の捉え方	障害の医学モデルへの賛同状況	h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である	-0.10	-0.02	0.23	0.15	0.07	0.01	0.32	1.00	0.07
	障害の社会モデルへの賛同状況	i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	0.31	0.37	0.20	0.13	0.31	0.27	-0.07	0.07	1.00

2017年		問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。	a	b	c	d	e	f	g	h	i
社会のあり方に関する考え	共生社会推進に対する態度	a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	1.000	0.728	0.226	0.141	0.457	0.426	-0.153	0.003	0.451
	「バリアフリー」のまちづくり推進に対する態度	b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	0.728	1.000	0.225	0.112	0.420	0.431	-0.096	0.004	0.406
障害・障害者に対する意識	ステレオタイプ	c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	0.226	0.225	1.000	0.513	0.285	0.161	0.118	0.213	0.230
		d) 障害のある人はかわいそうだと思う	0.141	0.112	0.513	1.000	0.113	-0.019	0.127	0.181	0.165
	心のバリアフリー	e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	0.457	0.420	0.285	0.113	1.000	0.601	-0.142	0.077	0.364
		f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	0.426	0.431	0.161	-0.019	0.601	1.000	-0.173	0.015	0.327
		g) 障害の問題は、自分にはかわからない	-0.153	-0.096	0.118	0.127	-0.142	-0.173	1.000	0.303	-0.074
障害の捉え方	障害の医学モデルへの賛同状況	h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である	0.003	0.004	0.213	0.181	0.077	0.015	0.303	1.000	0.104
	障害の社会モデルへの賛同状況	i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	0.451	0.406	0.230	0.165	0.364	0.327	-0.074	0.104	1.000

Ⅳ-2-2. 障害の社会モデル賛同者の構造 1)社会モデル賛同と医学モデル賛同の混在状況

【2018年】障害は個人の問題ではなく社会の問題（社会的不利）と考える人は44.3%（障害の社会モデル賛同者のうち、医学モデル非賛同者）

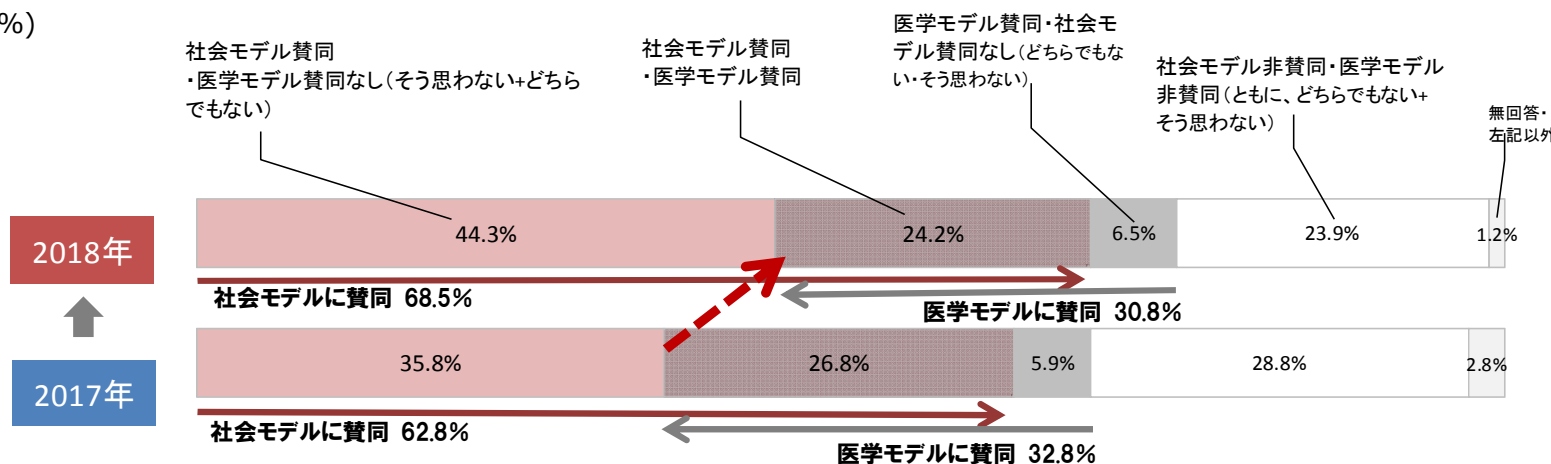
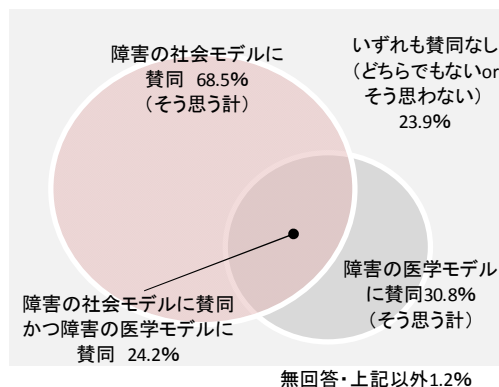
この調査では、内閣官房による障害の社会モデルの定義「障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である」、文部科学省による障害の医学モデルの定義「障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である」を用いた。この障害の社会モデル定義は社会と個人の相互作用とする統合モデルであるため、この定義での社会モデル賛同者の中に障害をもつばら個人の問題と捉える医学モデル賛同者が混在することも想定された。障害の問題は障害者が経験する社会的不利であり、その不利発生原因は社会に源泉を持つという考え方に立脚すると、医学モデルの考え方は、社会モデルの考え方に相反するものとして捉えられることになる。

- ▲ 社会モデル、医学モデルに対する賛同・非賛同の回答を組み合わせることにより、社会的不利の発生原因を社会・個人のどちらとして認識しているのかを確認したところ、2018年では、社会モデル賛同者（68.5%）中、約3分の2の44.3%は医学モデルに賛同していない人が占めた。

【時系列変化】障害の社会モデルに賛同し、かつ医学モデルに賛同していない人：2017年35.8% ➡ 2018年44.3% +9ポイント

- ▲ 2017年から2018年にかけて、社会モデル賛同者は62.8%から68.5%に5.8ポイント増加した。社会モデル賛同者の中で医学モデルに賛同しない人、つまり障害の原因を社会的不利と考える人は、2017年では35.8%、2018年は44.3%と、9ポイント増加し、この1年間で拡大傾向にあることが示された（5%有意）。

障害の社会モデル・障害の医学モデルに対する態度（%）



【2018年】ステレオタイプを持たない社会モデル賛同者は23.3%

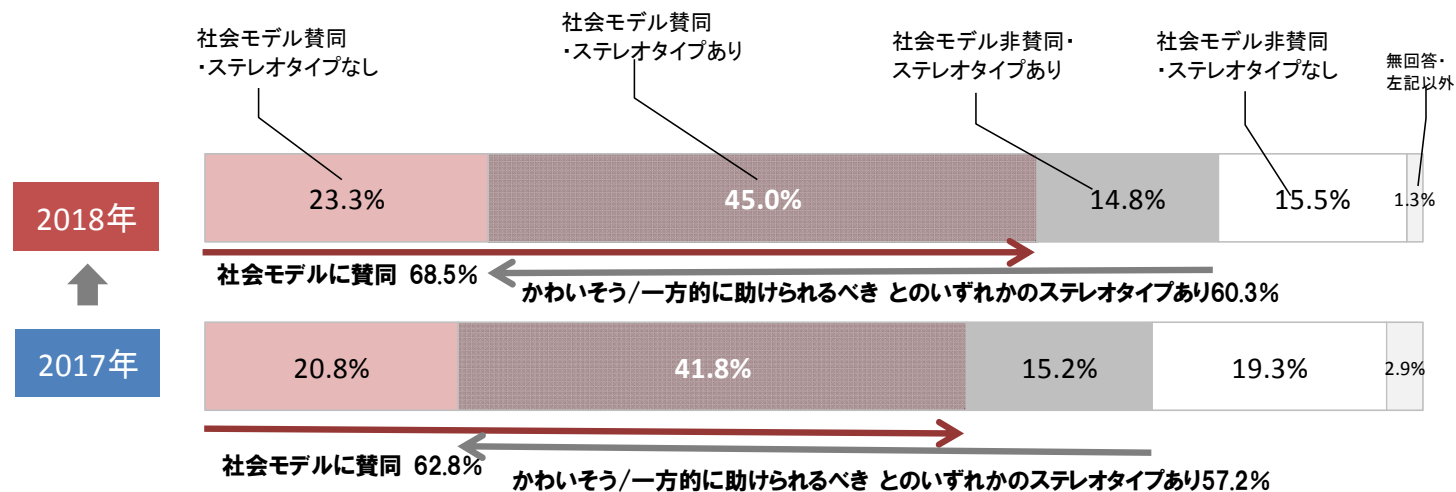
「障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う」（そう思う計39.3%）、「障害のある人はかわいそうだと思う」（そう思う計47.6%）の2つのステレオタイプ項目には、0.44の相関が見られ、比較的關係性が強いことが確認できた。このいずれかのステレオタイプがある人は60.3%を占めている。

社会モデルの賛同者の中にどのようにステレオタイプの意識が含まれているのかを確認するため、両者をかけあわせてみた。

- ▲ 社会モデル賛同者68.5%のうち、約3分の2の45.0%に障害者に対するいずれかのステレオタイプ意識があることが確認された。
- ▲ いずれのステレオタイプも持たない社会モデル賛同者は23.3%にとどまった。

【時系列変化】ステレオタイプ意識のない社会モデル賛同者 : 2017年20.8% ▶ 2018年23.3% +3ポイント
ステレオタイプ意識のある社会モデル賛同者 : 2017年41.8% ▶ 2018年45.0% +3ポイント

- ▲ ステレオタイプ意識のない社会モデル賛同者は、2017年から2018年にかけて、微増（+3ポイント）した。
- ▲ 社会モデル賛同者は62.8%から68.5%に5.8ポイント増加したが、ステレオタイプのある人・ない人双方が3ポイントずつ増加している構造であった。



【2018年】分離発想を持たない社会モデル賛同者は33.4%

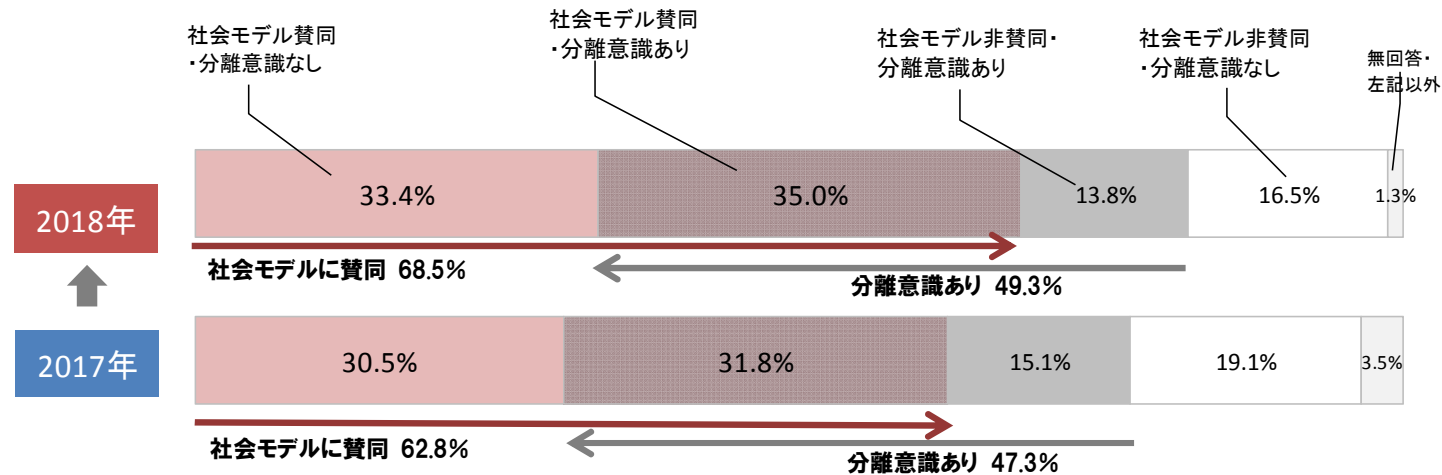
バーゲンセール会場というシチュエーションを設定し、社会的障壁遭遇時に対象者が考える解決策を選択させる設問(問2)において、2017年は「車いすや乳幼児連れの人混雑した場所に来ないほうがよい」、「一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人専用のエリアや通路を設けるのがよい」、「一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人たちの買い物時間帯を設けるのがよい」という選択肢を設けて、混雑したバーゲン会場で買い物ができない人に対する分離による解決発想を持つ人の程度を確認した。

- ▲ 社会モデルの賛同者の中にどのように分離発想が含まれているのかを確認するため、社会モデルへの賛同と、いずれかの分離発想がある状況をかけあわせてみたところ、社会モデル賛同者68.5%のうち約半数の35.0%は、「車いすや乳幼児連れの人混雑した場所に来ないほうがよい」、あるいは「一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人専用のエリアや通路を設けるのがよい」、「一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人たちの買い物時間帯を設けるのがよい」のいずれかを選択しており、“多様な人々が利用しやすいようあらかじめ都市や生活環境をデザイン”するユニバーサルデザイン発想ではない解決方法をイメージしていることが明らかになった。
- ▲ 分離発想の選択肢をいずれも選ばなかった社会モデル賛同者は33.4%に留まった。

【時系列変化】 分離発想のない社会モデル賛同者 : 2017年30.5% ➡ 2018年33.4% +3ポイント

分離発想のある社会モデル賛同者 : 2017年31.8% ➡ 2018年35.0% +3ポイント

- ▲ 分離発想のない社会モデル賛同者は、2017年から2018年にかけて、微増(+3ポイント)した。
- ▲ 社会モデル賛同者は62.8%から68.5%に5.8ポイント増加したが、分離発想のある人・ない人双方が3ポイントずつ増加している構造であった。



IV-2-3. 障害の社会モデル獲得者 タイプ分類

【2018年】障害の社会モデル獲得者（医学モデル非賛同&ステレオタイプなし&分離発想なし）【タイプO】：9.9%

障害の社会モデルへの賛同、障害の医学モデルへの賛否、ステレオタイプの有無、分離発想の有無の状況をもとに整理し、医学モデルに賛同せず、ステレオタイプもなく、分離発想もない人を“障害の社会モデル獲得者”とするタイプ分類を試みた。

- 全体で68.5%と多数を占める障害の社会モデル単独への賛同者のうち、医学モデルには賛同がなく（「そう思わない」または「どちらでもない」）、ステレオタイプがなく（「そう思わない」または「どちらでもない」）、社会的障壁遭遇時にも分離発想に基づく解決策を選択していない人は、全体の9.9%であった（タイプO）。
- 社会モデル単独への賛同者68.5%のうち、大半の58.6%（ $P \cdot Q \cdot R$ ； $68.5 - 9.9 = 58.6\%$ ）は医学モデル、ステレオタイプ、分離の発想が入り混じった状況となっている。

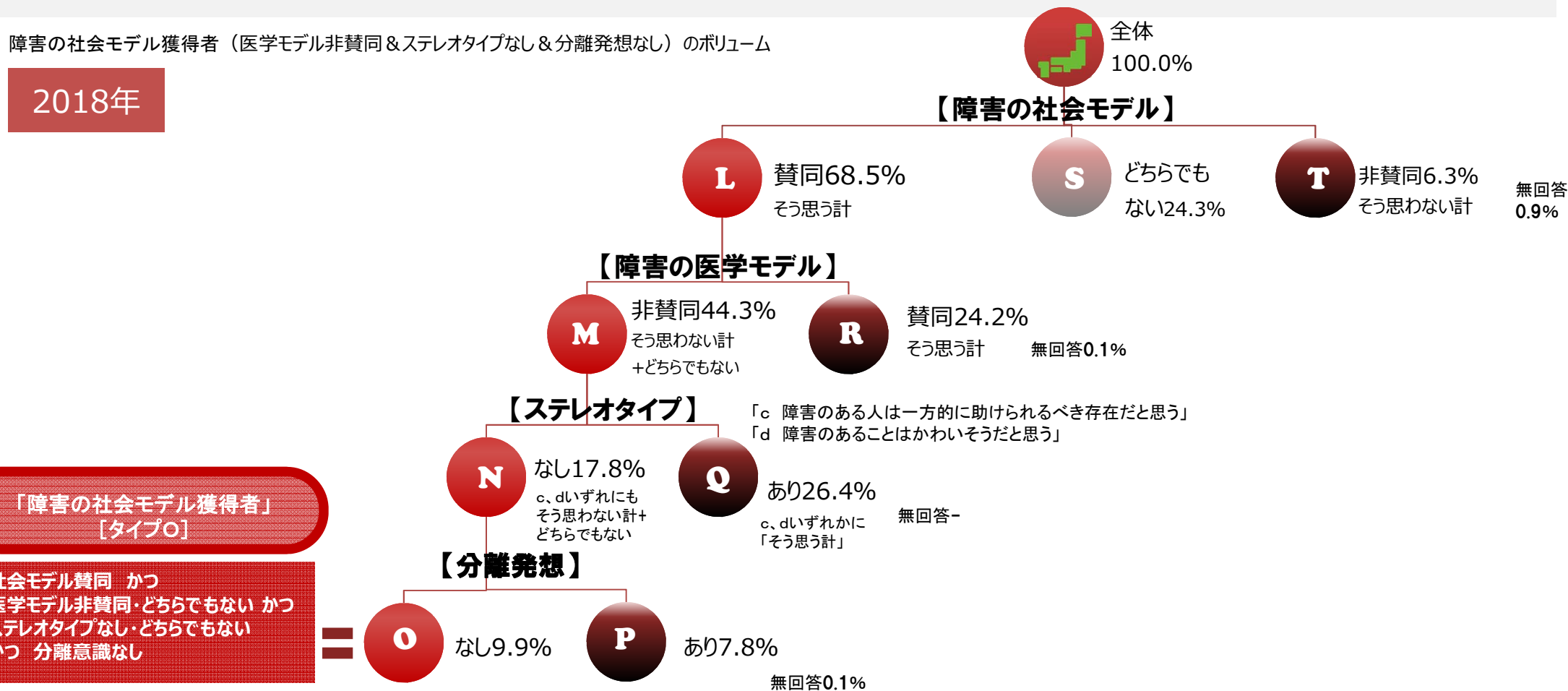
【時系列変化】 障害の社会モデル獲得者【タイプO】：2017年7.1% ➡ 2018年9.9% +3ポイント

医学モデル・ステレオタイプ・分離の発想が入り混じった社会モデル賛同者：2017年55.7% ➡ 2018年58.6% +3ポイント

- 障害の社会モデル獲得者のボリュームは、2017年の7.1%から3ポイント増加した(5%有意)。
- 医学モデル・ステレオタイプ・分離発想が入り混じった人も、障害の社会モデル獲得者と同程度（+3ポイント）増加している構造であった。

障害の社会モデル獲得者（医学モデル非賛同&ステレオタイプなし&分離発想なし）のボリューム

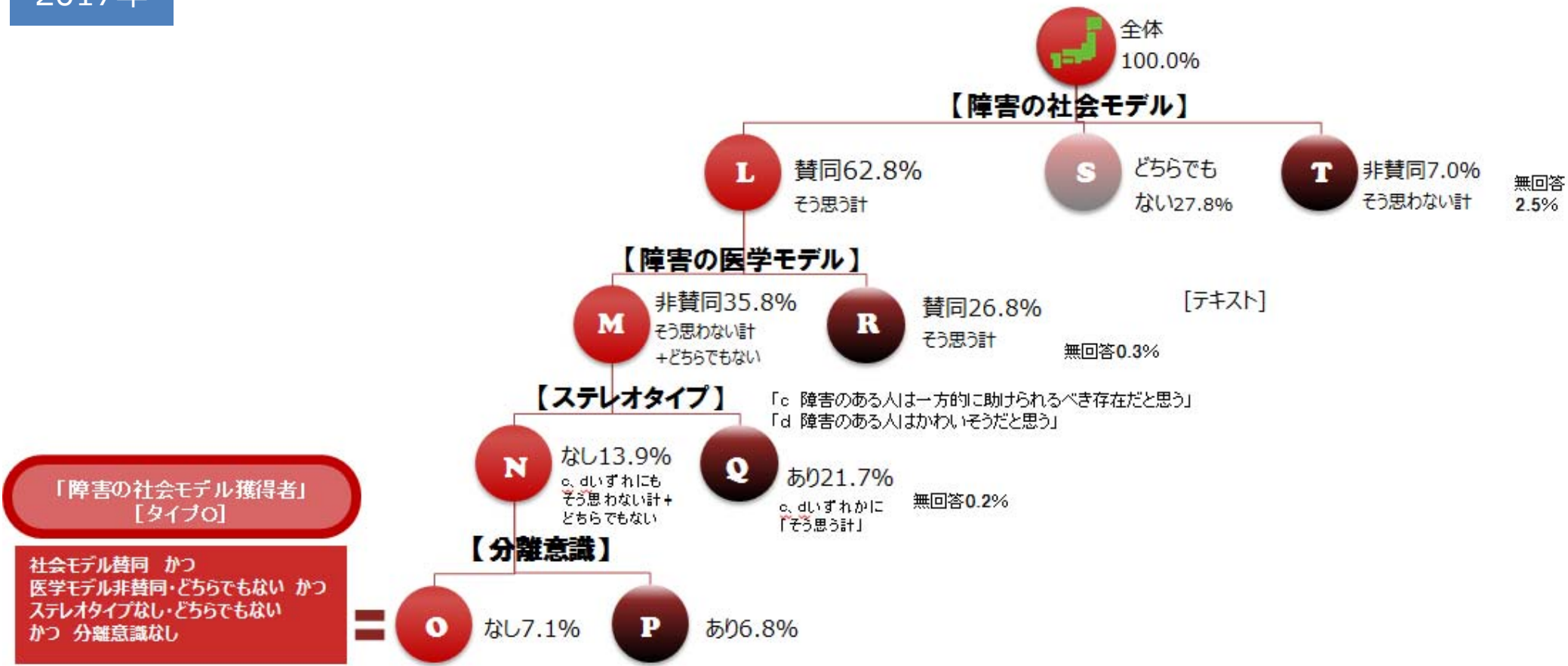
2018年



IV-2-3. 障害の社会モデル獲得者 タイプ分類

障害の社会モデル獲得者（医学モデル非賛同 & ステレオタイプなし & 分離発想なし）のボリューム

2017年



IV-2-3. 障害の社会モデル獲得者 タイプ分類 ①属性別出現率

障害の社会モデルの考え方単独への賛同者のうち、医学モデルには賛同がなく、ステレオタイプがなく、 社会的障壁遭遇時にも分離発想に基づく解決策を選択していない「障害の社会モデル獲得者」の属性特徴は以下の通り。

【2018年】 障害の社会モデル獲得者（医学モデル非賛同&ステレオタイプなし&分離発想なし）【タイプO】：

- ▲ 性別・年代：女性30代では16.3%を占め、他の性年代層よりも高い。男性70代、女性10代では3%程度と少ない。
- ▲ 都市規模：「郡部」では4.9%と少ない。
- ▲ 最終学歴：「短大」で15.4%、「大学・大学院」では13.6%と比較的高め。
- ▲ 家族構成：「単身世帯」では3.7%と少ない。
- ▲ 身近に障害のある人の有無：「身近に障害のある人がいる」層では11.9%、「身近に障害のある人がいない」層では8.6%であり、身近に障害者がある人のほうがやや多い。

2018年

社会モデル(Q1_i)			賛同																		どちらでもない				非賛同				左記以外						
医学モデル(Q1_h)																																			
ステレオタイプ(Q1_cd)																																			
分離意識(Q2_2-3)																																			
			L		M			N			O			P			Q			R			S			T									
	グループ	グループ	2017年	2018年	2018年-2017年	2017年	2018年	2018年-2017年	2017年	2018年	2018年-2017年	2017年	2018年	2018年-2017年	2017年	2018年	2018年-2017年	2017年	2018年	2018年-2017年	2017年	2018年	2018年-2017年	2017年	2018年	2018年-2017年	2017年	2018年	2018年-2017年						
全 体			(n=1,200)	(n=1,200)		62.8	68.5	5.7	35.8	44.3	8.5	13.9	17.8	3.9	7.1	9.9	2.8	6.8	7.8	1.0	21.7	26.4	4.7	26.8	24.2	-2.6	27.8	24.3	-3.6	7.0	6.3	-0.7	2.5	0.9	
男性小計			(n=596)	(n=592)		64.3	67.9	3.6	33.2	43.6	10.4	11.7	18.2	6.5	6.2	10.1	3.9	5.5	7.9	2.4	21.1	25.3	4.2	30.5	24.3	-6.2	25.8	25.5	-0.3	6.9	6.1	-0.8	3.0	0.5	
15～19才			(n=36)	(n=37)		47.2	62.2	15.0	13.9	43.2	29.3	11.1	13.5	2.4	8.3	8.1	-0.2	2.8	5.4	2.6	2.8	29.7	26.9	30.6	18.9	-11.7	38.9	27.0	-11.9	11.1	10.8	-0.3	2.8	-	
20～29才			(n=76)	(n=75)		56.6	65.3	8.7	28.9	40.0	11.1	11.8	17.3	5.5	5.3	9.3	4.0	6.6	8.0	1.4	17.1	22.7	5.6	27.6	25.3	-2.3	30.3	30.7	0.4	9.2	4.0	-5.2	3.9	-	
30～39才			(n=97)	(n=95)		49.5	61.1	11.6	22.7	38.9	16.2	9.3	17.9	8.6	6.2	9.5	3.3	3.1	8.4	5.3	13.4	21.1	7.7	26.8	22.1	-4.7	38.1	33.7	-4.4	12.4	5.3	-7.1	-	-	
40～49才			(n=109)	(n=111)		63.3	69.4	6.1	34.9	45.9	11.0	12.8	19.8	7.0	8.3	11.7	3.4	4.6	8.1	3.5	21.1	26.1	5.0	28.4	23.4	-5.0	29.4	26.1	-3.3	5.5	4.5	-1.0	1.8	-	
50～59才			(n=92)	(n=93)		70.7	68.8	-1.9	39.1	46.2	7.1	13.0	23.7	10.7	7.6	12.9	5.3	5.4	10.8	5.4	26.1	22.6	-3.5	31.5	22.6	-8.9	20.7	23.7	3.0	6.5	7.5	1.0	2.2	-	
60～69才			(n=110)	(n=106)		73.6	73.6	0.0	42.7	49.1	6.4	14.5	18.9	4.4	5.5	13.2	7.7	9.1	4.7	-4.4	28.2	30.2	2.0	30.9	24.5	-6.4	20.0	18.9	-1.1	3.6	5.7	2.1	2.7	1.9	
70～79才			(n=76)	(n=75)		78.9	70.7	-8.2	36.8	38.7	1.9	7.9	12.0	4.1	2.6	2.7	0.1	5.3	9.3	4.0	27.6	26.7	-0.9	39.5	32.0	-7.5	9.2	20.0	10.8	2.6	8.0	5.4	9.2	1.3	
女性小計			(n=604)	(n=608)		61.3	69.1	7.8	38.2	44.9	6.7	16.1	17.4	1.3	7.9	9.7	1.8	8.1	7.7	-0.4	22.2	27.5	5.3	23.0	24.0	1.0	29.6	23.0	-6.6	7.1	6.6	-0.5	2.0	1.3	
15～19才			(n=35)	(n=37)		51.4	62.2	10.8	37.1	32.4	-4.7	17.1	16.2	-0.9	5.7	2.7	-3.0	11.4	13.5	2.1	20.0	16.2	-3.8	14.3	29.7	15.4	40.0	35.1	-4.9	5.7	-	-5.7	2.9	2.7	
20～29才			(n=73)	(n=73)		53.4	61.6	8.2	32.9	38.4	5.5	12.3	12.3	0.0	5.5	5.5	0.0	6.8	6.8	0.0	20.5	26.0	5.5	20.5	23.3	2.8	37.0	32.9	-4.1	5.5	5.5	0.0	4.1	-	
30～39才			(n=97)	(n=92)		54.6	69.6	15.0	38.1	52.2	14.1	23.7	23.9	0.2	9.3	16.3	7.0	14.4	7.6	-6.8	14.4	28.3	13.9	16.5	17.4	0.9	40.2	20.7	-19.5	3.1	8.7	5.6	2.1	1.1	-
40～49才			(n=105)	(n=110)		61.9	69.1	7.2	36.2	46.4	10.2	14.3	20.9	6.6	9.5	10.0	0.5	4.8	10.9	6.1	21.9	25.5	3.6	25.7	22.7	-3.0	31.4	24.5	-6.9	5.7	6.4	0.7	1.0	-	
50～59才			(n=91)	(n=93)		63.7	69.9	6.2	44.0	57.0	13.0	20.9	21.5	0.6	11.0	12.9	1.9	9.9	8.6	-1.3	23.1	35.5	12.4	19.8	12.9	-6.9	25.3	21.5	-3.8	8.8	6.5	-2.3	2.2	2.2	
60～69才			(n=112)	(n=115)		70.5	77.4	6.9	43.8	48.7	4.9	15.2	16.5	1.3	8.9	9.6	0.7	6.3	7.0	0.7	28.6	32.2	3.6	26.8	27.8	1.0	18.8	14.8	-4.0	10.7	6.1	-4.6	-	1.7	
70～79才			(n=91)	(n=88)		63.7	65.9	2.2	33.0	28.4	-4.6	8.8	8.0	-0.8	3.3	5.7	2.4	5.5	2.3	-3.2	24.2	20.5	-3.7	30.8	37.5	6.7	24.2	22.7	-1.5	8.8	9.1	0.3	3.3	2.3	
地域	北海道・東北		(n=144)	(n=132)		57.6	62.1	4.5	29.9	40.2	10.3	12.5	21.2	8.7	7.6	9.8	2.2	4.9	11.4	6.5	17.4	18.9	1.5	27.8	22.0	-5.8	31.9	31.1	-0.8	9.0	6.8	-2.2	1.4	-	
	関 東		(n=432)	(n=444)		60.2	71.2	11.0	37.0	48.0	11.0	14.1	17.1	3.0	7.2	10.1	2.9	6.9	7.0	0.1	22.7	30.9	8.2	22.7	23.0	0.3	29.9	22.3	-7.6	7.2	5.4	-1.8	2.8	1.1	
	中部・北陸		(n=192)	(n=192)		68.8	67.2	-1.6	35.9	43.2	7.3	10.9	17.7	6.8	4.7	8.9	4.2	6.3	8.9	2.6	25.0	25.5	0.5	32.8	24.0	-8.8	24.0	24.5	0.5	4.2	6.8	2.6	3.1	1.6	
	近 畿		(n=192)	(n=192)		63.5	70.8	7.3	35.9	47.9	12.0	15.6	19.8	4.2	8.9	12.0	3.1	6.8	7.3	0.5	19.8	28.1	8.3	27.1	22.9	-4.2	29.7	22.9	-6.8	4.7	6.3	1.6	2.1	-	
都市規模	中国・四国・九州		(n=240)	(n=240)		65.0	66.3	1.3	36.7	37.5	0.8	15.4	15.8	0.4	7.1	8.8	1.7	8.3	7.1	-1.2	21.3	21.7	0.4	28.3	28.8	0.4	22.9	25.0	2.1	9.6	7.5	-2.1	2.5	1.3	
	21大都市		(n=342)	(n=348)		61.7	69.3	7.6	39.2	43.1	3.9	13.5	16.7	3.2	6.7	10.1	3.4	6.7	6.3	-0.4	25.4	26.4	1.0	22.2	26.1	3.9	28.4	22.7	-5.7	8.5	7.5	-1.0	1.5	0.6	
	15万以上の都市		(n=378)	(n=379)		63.0	68.9	5.9	33.1	44.6	11.5	12.4	18.2	5.8	6.1	10.3	4.2	6.3	7.9	1.6	20.4	26.4	6.0	29.4	24.3	-5.1	27.2	25.1	-2.1	7.4	5.8	-1.6	2.4	0.3	
	15万未満の市		(n=366)	(n=371)		65.3	69.5	4.2	36.1	47.4	11.3	15.6	20.5	4.9	8.7	10.8	2.1	6.8	9.7	2.9	20.5	27.0	6.5	29.2	21.8	-7.4	25.4	22.9	-2.5	5.2	5.7	0.5	4.1	1.9	
郡 部			(n=114)	(n=102)		57.0	60.8	3.8	33.3	35.3	2.0	14.9	10.8	-4.1	6.1	4.9	-1.2	8.8	5.9	-2.9	18.4	24.5	6.1	23.7	25.5	1.8	35.1	31.4	-3.7	7.0	6.9	-0.1	0.9	1.0	

IV-2-3. 障害の社会モデル獲得者 タイプ分類 ①属性別出現率

2018年

社会行"＼＼		
--	--	--

IV-2-3. 障害の社会モデル獲得者 タイプ分類 ②社会的障壁に接した場面での行動イメージ

障害の社会モデル獲得状況別に、バーゲンセール会場シチュエーションでの社会的障壁遭遇時の意見・行動を見てみた。

【2018年】

社会モデル獲得者はソフト面による解決選択率が高い

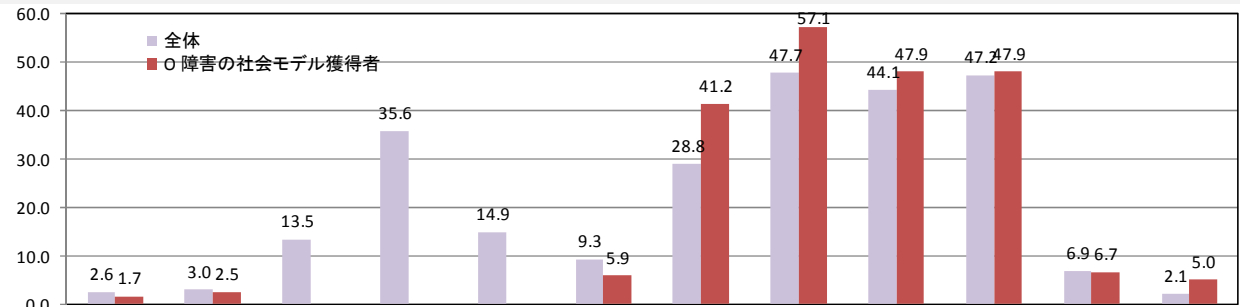
- ▲ 障害の社会モデル獲得者（タイプO）は、「近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい」（8）（全体との差12ポイント）、「混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい」（7）（差10ポイント）といったソフト面による解決を考える人が全体に比べて多い。

社会モデルの理解と実践にはまだ大きな隔たりが存在

- ▲ 「店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい」（10）という社会に働きかけるアクションに踏み込もうとする人は、障害の社会モデル獲得者（タイプO）でも全体（6.9%）並みの6.7%にとどまり、社会モデルを理解する段階と、社会にはたらきかける実践の段階には依然大きな隔たりが存在していることが示唆された。

問2 「バーゲンセールのショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません。」このようなとき、あなたはどのように考えますか。（○はい/いつでも）

2018年



					解決策イメージ										その他					
選択肢番号					1	12	2	3	4	5	8	7	6	9	10	11				
社会モデルQ1(i)	医学モデルQ1(h)	ステレオタイプQ1(cd)	分離意識Q2(2,3,4)		無関心		分離による解決			ソフト面による解決			ハード面による解決	改善責任の認識	障壁除去のための社会への働きかけ					
							自発行動													
全体					(n=1,200)	2.6	3.0	13.5	35.6	14.9	9.3	28.8	47.7	44.1	47.2	6.9	2.1			
賛同				L	(n=822)	1.8	1.7	11.7	38.2	15.9	10.0	32.5	52.2	47.0	52.7	8.0	2.1			
				非賛同・どちらでもない		M	(n=531)	2.1	1.5	9.6	37.1	15.6	11.3	34.1	56.1	50.3	53.5	8.1	2.6	
				なし・どちらでもない		N	(n=214)	1.4	1.4	6.5	35.5	13.1	10.7	39.7	57.0	50.9	50.5	9.3	4.2	
						なし	O	(n=119)	1.7	2.5				5.9	41.2	57.1	47.9	47.9	6.7	5.0
						あり	P	(n=94)	1.1	-	14.9	80.9	29.8	17.0	38.3	57.4	55.3	54.3	12.8	3.2
				あり		Q	(n=317)	2.5	1.6	11.7	38.2	17.4	11.7	30.3	55.5	49.8	55.5	7.3	1.6	
賛同				R	(n=290)	1.4	2.1	15.5	40.3	16.6	7.6	29.3	44.8	41.0	51.4	7.9	1.0			
どちらでもない				S	(n=291)	4.1	5.5	17.5	29.6	13.4	8.2	20.6	40.9	39.9	34.4	4.8	1.0			
非賛同				T	(n=76)	3.9	7.9	19.7	28.9	9.2	5.3	22.4	26.3	32.9	38.2	2.6	6.6			
O-全体					-0.9	-0.5	-	-	-	-3.4	12.3	9.5	3.8	0.7	-0.2	3.0				

IV-2-3. 障害の社会モデル獲得者 タイプ分類 ②社会的障壁に接した場面での行動イメージ

障害の社会モデル獲得状況別に、無人駅シチュエーションでの社会的障壁遭遇時の意見・行動を見てみた。

【2018年】

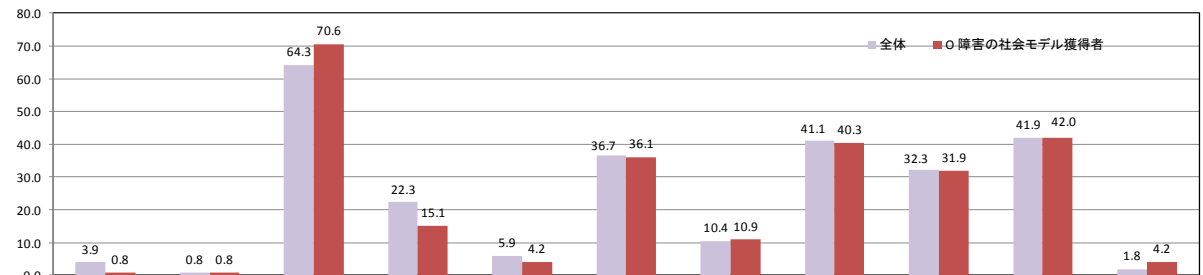
社会モデル獲得者は、社会的障壁発生への気づきが高く、社会的責任を「しかたない」と断念する人が少ない

- ▲ 障害の社会モデル獲得者(タイプO)は、「この駅の状態では、乗り降りが困難となる人がでてきそうだ」(1)という障壁発生に気づく人（70.6%）が全体（64.3%）に比べて多い。また、「この駅の状態には問題があるが、すべての駅を改修することは難しいので、しかたない」(2)と、社会的責任を断念する人（15.1%）が全体（22.3%）に比べて少ない。

社会的責任の理解、自発行動は、社会モデル獲得者と全体とで差なし

- ▲ 「鉄道会社は、乗り降りが困難な乗客への対応を、乗客の「やさしさ」に頼って放置してはいけない」(6)、「交通サービスが誰にとっても不便や不都合なく利用できる社会にするのは、社会の責務だと思う」(8)、「この駅で乗り降りが困難な人がでるのは、困難を感じる人の問題ではなくて、この駅の状態を放置して営業を続けていることに問題がある」(7)で示した社会的責任理解については、障害の社会モデル獲得者(タイプO)は全体と同水準となっている。これら社会的責任の理解（6,7,8）は、社会モデル獲得者（タイプO）よりも、分離意識がある人(P)、ステレオタイプがある人(Q)のほうが高いことも示された。かわいそう・助けられるべき存在といった障害者に対するステレオタイプについては、そうした障害者に対する特殊な意識がもととなって、社会の責任をより強く自覚し、社会的行動をとるべきとの発想につながりやすくなっている可能性も考えられる。分離意識については、分離的解決かどうかに限らず、解決策のイメージを持っている人ほど社会的責任理解が高い傾向が見られた。
- ▲ 「駅のあり方について不備に気づいたら、気づいた自分が鉄道会社に改善提案をしていきたい」(5)という社会に働きかけるアクションに踏み込もうとする人は、障害の社会モデル獲得者（タイプO）でも全体（10.4%）並みの10.9%にとどまっており、バーゲンセールのシチュエーション同様、社会モデルを理解していても社会的行動に移行できる段階にはまだ届いていない人が多数を占めている。

問3 「ローカル線無人駅のA駅。
この駅で電車に乗るには、駅舎の改札口から構内の踏切を渡り、島式ホーム（高さ約1メートル）まで階段を数段上がらなければなりません。
電車が来る数分前に、日本語で、電車の行き先や車両数などの自動音声アナウンスがありますが、直前のアナウンスはありません。」
このような鉄道サービスについて、あなたはどのように考えますか。（○はい/つでも）



2018年

選択肢番号				10	11	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
社会モデル Q1(i)	医学モデル Q1(h)	ステレオタイプ Q1(cd)	分離意識 Q2(2,3,4))		無関心		障壁発生理解		社会的責任 放置・断念		まづみティによる 障壁除去		自発行動(改善 提案)		社会的責任理解	
全体				(n=1,200)	3.9	0.8	64.3	22.3	5.9	36.7	10.4	41.1	32.3	41.9	1.8	
賛同				L (n=822)	2.1	0.6	68.5	20.2	5.8	39.1	11.3	45.5	36.6	48.1	1.3	
	非賛同・どちらでもない			M (n=531)	1.9	0.4	74.2	20.7	5.6	40.7	11.1	49.3	39.2	50.8	1.7	
	なし・どちらでもない			N (n=214)	0.9	0.5	72.4	17.8	6.1	38.8	12.1	52.3	36.9	45.8	2.8	
				なし O (n=119)	0.8	0.8	70.6	15.1	4.2	36.1	10.9	40.3	31.9	42.0	4.2	
				あり P (n=94)	1.1	-	75.5	21.3	8.5	42.6	13.8	68.1	43.6	51.1	1.1	
				あり Q (n=317)	2.5	0.3	75.4	22.7	5.4	42.0	10.4	47.3	40.7	54.3	0.9	
	賛同			R (n=290)	2.4	1.0	57.9	19.3	6.2	35.9	11.4	38.3	32.1	43.1	0.7	
どちらでもない				S (n=291)	7.2	1.0	56.4	27.8	5.5	33.3	7.2	29.2	22.3	29.9	2.1	
非賛同				T (n=76)	10.5	1.3	50.0	25.0	7.9	26.3	13.2	43.4	26.3	23.7	6.6	
O-全体					-3.1	0.1	6.3	-7.1	-1.7	-0.5	0.5	-0.7	-0.3	0.1	2.4	

IV-2-3. 障害の社会モデル獲得者 タイプ分類 ③共生社会の実現度合評価

共生社会の実現度評価（0～10点）を、障害の社会モデル獲得状況別に見てみた。

【2018年】共生社会の実現度評価は、社会モデル獲得者と全体とで差なし

- ▲ 2018年障害の社会モデルの獲得者（タイプO）は、10点満点中平均3.9点で、全体（4.0点）と同レベルである。
- ▲ 共生社会の実現レベルをやや高めに捉えているのは、障害の医学モデルの賛同者（タイプR、平均4.3点）であった。

共生社会の実現度合評価 平均値

					2018年		
						平均値	標準偏差
社会モデル (Q1_i)	医学モデル (Q1_h)	ステレオタイプ (Q1_cd)	分離意識 (Q2_2・3)				
全体					(n=1,200)	4.0	1.7
社会モデル タイプ分類	賛同			L	(n=822)	4.0	1.7
	賛同	非賛同・どちらでもない		M	(n=531)	3.8	1.6
		なし・どちらでもない		N	(n=214)	3.9	1.6
		なし		O	(n=119)	3.9	1.5
		あり		P	(n=94)	3.8	1.7
		あり		Q	(n=317)	3.8	1.7
		賛同			R	(n=290)	4.3
	どちらでもない			S	(n=291)	4.1	1.7
	非賛同			T	(n=76)	3.6	1.7

結果サマリー

障害理解の実態（問1）

社会のあり方に関する考えや、障害・障害者に対する意識、障害の捉え方に関する9つの意見・認識に対する適合度合いを7段階で尋ね、障害理解の実態を測定した結果は以下のとおり。

【2018年の結果】（そう思う計）

D 社会のあり方に対する考え：

共生社会推進への賛同率（障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う 93.5%）、ユニバーサルデザインのまちづくり推進への賛同率（障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う 89.3%）は9割前後と高い。

D 心のバリアフリー：

障害者への援助行動（障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる 77.8%）、仲間に入れることに抵抗感なし（障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない 72.8%）はともに7割台と高い。

D 障害者に対するステレオタイプ：

「障害のあることはかわいそうだと思う」（47.6%）、「障害のある人は一方的に助けられるべき存在だと思う」（39.3%）といった障害者に対するステレオタイプを持つ人は約4～5割。

D 障害の捉え方：

障害の社会モデルへの賛同率（障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によって作り出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である 68.5%）は7割弱であるのに対し、障害の医学モデルへの賛同率（障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もつばら個人の適応努力が必要である 30.8%）は約3割。

D 無関心：

障害問題への無関心者は約1割（障害の問題は、自分にはかわりがない 9.5%）。

【2017年から2018年への時系列変化】

D 共生社会推進、ユニバーサルデザインのまちづくり推進への賛同、心のバリアフリー、障害の社会モデルへの賛同はいずれも、2017年～2018年の1年間で有意に増加し、ユニバーサルデザイン社会を実現しようとする人々の意識、心のバリアフリー意識は高まってきているように見える。

D 一方で、「障害のある人は一方的に助けられるべき存在」、「かわいそう」とするステレオタイプは依然4割～5割弱程度存在し、1年間で減少することはなかった。また、障害の医学モデルに対する賛同も約3割程度存在しており、1年間で減少することはなかった。

社会的障壁に接した場面での行動イメージ（問2 混雑したバーゲンセール会場の事例）

混雑したバーゲンセール会場を例に具体的な社会的障壁のあるシチュエーションを示し、このような状況に遭遇したときにどう考えるか、どのような行動を起こすと思うかを複数回答で尋ねた結果は以下のとおり。

【2018年の結果】（複数回答の比率）

㊦ 改善責任の認識：

「すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当たり前のことなので、店はこの状況を改善する必要がある」との、設置者（店）側の改善責任を感じている人は約半数（47.2%）にのぼる。

㊦ ハード面・ソフト面による解決：

解決方法に関する意見として、「狭い通路の売り場をつくらないようにするのがよい」とのハード面での解決方法（44.1%）、「混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい」とのソフト面での解決方法（47.7%）が、ともに4割台が多い。

「近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人に手助けが必要かを聞き、手伝いたい」と、自身がサポートすることによる解決方法は約3割（28.8%）。

㊦ 分離による解決：

「車いすや乳幼児連れの人には混雑した場所に来ないほうがよい」との考えは13.5%にとどまったが、「一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人専用のエリアや通路を設けるのがよい」という分離による解決策を考える人は35.6%存在した。解決策として分離発想を持つ人は一定数存在しており、ユニバーサルデザインの発想が十分浸透しているとは言い難い。

㊦ 社会への働きかけ：

「店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい」との回答率は6.9%。自らが店に改善提案するといった社会への働きかけを表明している人はごく少数にとどまっている。

【2017年から2018年への時系列変化】

㊦ 自身の援助意欲は上昇、無関心は低下しており、自分が単独で動く範囲での行動意欲については高まりがみられる。一方、社会的障壁除去のために社会や他者にはたらきかける範囲にまで踏み込んだ社会的行動意欲は低下が見られた。

㊦ 分離による解決意見について、「車いすや乳幼児連れの人には混雑した場所に来ないほうがよい」との極端な分離発想は低下したが、「一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人専用のエリアや通路を設けるのがよい」は35～36%の比較的高いレベルで推移し、低下は見られなかった。

同じエリア・通路をさまざまな人が利用しやすいようにデザインするのがユニバーサルデザインの発想である。一般客とは別に車いすや乳幼児連れの人がいり物するエリアや通路を設置するという方法では、まことに社会的障壁が残留することになる。ユニバーサルデザインの発想はまだ十分浸透できておらず、分離発想が混在していると推察される。

共生社会の実現度合評価（問4）

いまの日本社会はどの程度共生社会を実現していると思うかについて、0点（全く実現していない）～10点（完全に実現している）のスケールで尋ねた結果は以下のとおり。

【2018年の結果】

㊐ 2018年の日本の共生社会実現レベル(平均値) は10点満点中4.0点

中央（5点）よりも低い採点者が半数を超え（0～4点計58.6%）、共生社会実現レベルの認識は低めである。

【2017年から2018年への時系列変化】

㊐ 日本の共生社会実現レベル(平均値) は、2017年、2018年で変化せず

共生社会推進に対する賛同者はこの1年で増加したが（2017年88.4%→2018年93.5%）、共生社会実現レベルの評価（平均値）は、4.0点と低水準のまま変化しなかった。

障害の社会モデル獲得者（問1・問2 結果より）

障害の社会モデルの考え方の獲得実態を、障害の医学モデルへの賛否、ステレオタイプの有無、分離意識の有無の状況をもとに整理し、医学モデルに賛同せず、ステレオタイプもなく、分離発想もない人を“障害の社会モデル獲得者”として分類した結果は以下のとおり。

【2018年の結果】

㊐ 障害の社会モデル獲得者（医学モデル非賛同&ステレオタイプなし&分離発想なし）：9.9%

全体で68.5%と多数を占める社会モデル単独への賛同者のうち、医学モデルには賛同がなく（「そう思わない」または「どちらでもない」）、ステレオタイプがなく（「そう思わない」または「どちらでもない」）、社会的障壁遭遇時にも分離発想に基づく解決策を選択していない人は、全体の約1割（9.9%）であった。社会モデル単独の賛同者のうち大半の58.6%は、医学モデル、ステレオタイプ、分離の発想が入り混じった状況にある。

【2017年から2018年への時系列変化】

障害の社会モデル獲得者は、2017年7.1%から2018年9.9%と、2.8ポイント増加

障害の社会モデル獲得者のボリュームは微増した。

テーマ:「ユニバーサルデザインについてお伺いします」

【すべての方に】

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思うものに○をつけてください。(N = 1200)
(それぞれ○は1つずつ)

	とても 非常に 思ふ	そう 思ふ	やや 思ふ	やや 思ふ	どちら でも	あまり 思ふ	全然 思ふ	NA
a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にしたい、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	41.3	40.9	11.3	4.6	0.2	0.7	0.5	
b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	32.0	41.2	16.2	8.3	1.1	0.2	0.7	0.5
c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	6.0	13.7	19.7	30.0	18.3	7.5	4.0	0.8
d) 障害のあることは、かわいそうだと思う	5.5	14.3	27.8	26.2	12.8	7.8	5.1	0.6
e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	15.3	32.9	29.6	17.1	3.3	0.5	0.8	0.7
f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	17.3	32.8	22.8	19.6	4.7	1.3	0.9	0.7
g) 障害の問題は、自分にはかわりがない	1.4	2.8	5.3	25.2	22.2	23.8	18.2	1.2
h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除去・対処するには、治療や訓練等もっぱら個人の対応努力が必要である	3.6	10.3	16.8	29.1	16.3	16.0	6.8	1.0
i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によってつくり出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	12.0	28.9	27.6	24.3	3.5	1.9	0.9	0.9

※「a)」「b)」「c)」「d)」「e)」「f)」「g)」「h)」「i)」の各項目について、回答が「とても思ふ」から「全然思ふ」まで5段階あり、その平均値を算出した。NAは「わからない」と回答した割合を示す。

問2 「バーゲンセールのショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません。」

このようなとき、あなたはどのように考えますか。(○はいくつでも) (N = 1200)

1	2.6	自分には関係ない・関わりたくない
2	13.5	車いすや乳幼児連れの人は混雑した場所に来ないほうがよい
3	35.6	一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人専用のエリアや通路を設けるのがよい
4	14.9	一般客とは別に、車いすや乳幼児連れの人たちの買い物時間帯を設けるのがよい
5	9.3	車いすや乳幼児連れのお客様の代わりに、店員が混雑した会場での買物を代行するのがよい
6	44.1	狭い通路の売り場をつくらないようにするのがよい
7	47.7	混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにするのがよい
8	28.8	近くにいて、自分が、車いすや乳幼児連れの人の手助けが必要がを聞き、手伝いたい
9	47.2	すべての人が安全快適に買い物できる店をつくるのは当たり前のことなので、店はこの状況を改善する必要がある
10	6.9	店舗づくりや施設に関して不備に気づいたら、気づいた自分が店舗に改善提案をしていきたい
11	2.1	その他()
12	3.0	特に何も思わない

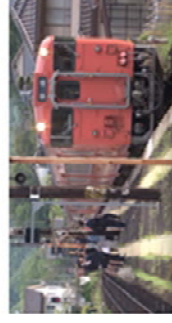
NA 0.5

問3 「ローカル線無人駅」のA駅。

この駅で電車に乗るには、駅舎の改札口から構内の踏切を渡り、島式ホーム（高さ約1メートル）まで階段を数段上がらなければなりません。

電車が来る数分前に、日本語で、電車の行き先や車両数などの自動音声アナウンスがありますが、直前のアナウンスはありません。」

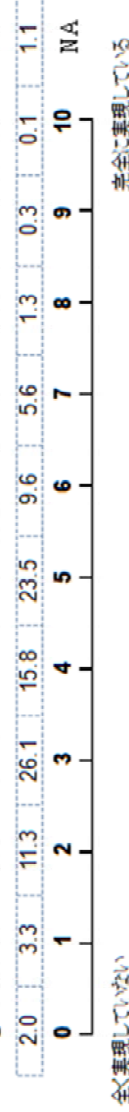
このような鉄道サービスについて、あなたはどうか考えますか。（○はいくつでも）（N=1200）



- 1 64.3 この駅の状態では、乗切降りが困難となる人がでてきそう
- 2 22.3 この駅の状態には問題があるが、すべての駅を改修することは難しいので、しかたない
- 3 5.9 乗切降りが困難な人は、この駅の利用をあきらめるしかない
- 4 36.7 乗切降りが困難な人がいたら、駅員がいらないので、まわりの乗客が善意でサポートすればよい
- 5 10.4 駅のあり方について不備に気づいたら、気づいた自分が鉄道会社に改善提案をしていきたい
- 6 41.1 鉄道会社は、乗切降りが困難な乗客への対応を、乗客の「やさしさ」に頼って放置してはいけない
- 7 32.3 この駅で乗切降りが困難な人であるのは、困難に感じる人の問題ではなくて、この駅の状態を放置して営業を続けていることに問題がある
- 8 41.9 交通サービスが誰にとっても不便や不都合なく利用できる社会にするのは、社会の責務だと思う
- 9 1.8 その他（ ）
- 10 3.9 特に何も思わない
- 11 0.8 乗切降りが困難な人がいても、自分には関係ない・関わりがたくない

NA 0.8

問4 いまの日本の社会は、どの程度、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人が互いの人権や尊厳を大切にし支え合い、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を実現していると思いますか。0~10までの11段階でお答えください。（○は1つだけ）（N=1200）



問5 あなたの身近に障害のある人がいますか。あてはまるものを全てお答えください。（○はいくつでも）（N=1200）

1	13.3	家族	3	8.8	友人	5	20.0	知人	7	52.4	いない
2	1.5	自分	4	3.3	同僚	6	5.6	その他()	8	4.6	答えたくない
NA 0.3											

テーマ：「2020年東京オリンピック・パラリンピック」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 2020年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会について、あなたにあてはまるものをお知らせください。（それぞれ○は1つずつ）（N=1200）

	とても そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	全くそう思 わない	NA
オリンピック競技を 会場やテレビ等で観戦したい	47.3	33.3	8.6	6.4	4.3	0.2
パラリンピック競技を 会場やテレビ等で観戦したい	27.8	35.9	18.4	11.8	5.8	0.3
大会ボランティアとして参加したい	2.4	7.4	22.7	29.9	36.9	0.7
オリンピック競技大会・パラリン ピック競技大会の成功を応援したい	48.3	30.7	11.3	4.3	5.3	0.2

テーマ:「ユニバーサルデザイン」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 下記について、あなたの考えとして、もっとも近いと思われるものに○をつけてください。

(それぞれ○は1つずつ)

	非常に 思う	そう 思う	そう 思う	やや 思う	やや ない	思 わない	思 わない	思 わない	全 く思 わない	NA
a) 障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にしたい、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会を実現すべきだと思う	40.5	34.4	13.5	7.5	0.7	0.3	1.2		2.0	
b) 障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう、あらかじめ都市や生活環境をデザインすべきだと思う	31.0	36.3	17.5	10.5	1.0	0.3	1.3		2.0	
c) 障害のある人は、一方的に助けられるべき存在だと思う	5.9	14.6	20.0	27.7	15.7	7.6	6.2		2.4	
d) 障害のある人はかわいそうだと思う	5.8	11.8	27.2	26.8	11.6	6.8	7.5		2.6	
e) 障害のある人が困っているときには、迷わず援助できる	13.0	28.4	30.3	18.8	4.4	1.2	1.2		2.8	
f) 障害のある人を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない	15.3	29.0	23.4	22.2	4.4	1.9	1.5		2.3	
g) 障害の問題は、自分にはかわりがない	2.0	3.6	7.8	29.0	18.1	18.1	18.6		2.8	
h) 障害は、病気や外傷等から生じる個人の問題であり、障害の原因を除く・対処するには、治療や訓練等もっぱら個人の適応能力が必要である	4.9	9.5	18.4	33.4	13.8	9.5	8.2		2.3	
i) 障害は、個人の心身機能の障害と社会的障壁の相互作用によってつくり出されているものであり、社会的障壁を取り除くのは社会の責務である	13.0	23.3	26.5	27.8	4.4	0.9	1.7		2.5	

※:「心のバリアフリー」に向けた取組性のある研修プログラム「障害者に対する理解と共生」の調査結果に基づき作成された調査票より
a-f:「心のバリアフリー」に向けた取組性のある研修プログラム「障害者に対する理解と共生」の調査結果に基づき作成された調査票より
g-i:「心のバリアフリー」に向けた取組性のある研修プログラム「障害者に対する理解と共生」の調査結果に基づき作成された調査票より

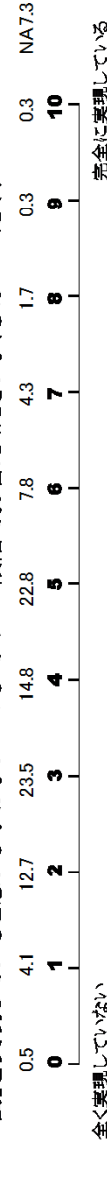
問2 「バーゲンセールのショッピングモールに多くの人が買物に来ていて、車いすのお客様、乳幼児連れのお客様が混雑の中で買物ができません。」

このようなとき、あなたはどうか考えますか。(○はい/くても)

2.3	1	自分には関係ない・関わりたくない
17.3	2	車いすや乳幼児連れの人は混雑した場所に来ないほうがよい
35.1	3	車いすや乳幼児連れの人の専用エリアや通路、時間帯などを設けるのがよい
8.0	4	車いすや乳幼児連れのお客様の代わりに、店員が混雑した会場の買物を代行するべき
42.3	5	狭い通路の売り場をつくらないようにするべき
45.1	6	混雑時は、店側がお客様を順番に少しずつ店内に誘導するなど、誰もが買物できるようにすべき
24.8	7	近くにいる客として、自分が、車いすや乳幼児連れの人の手助けが必要か聞き、実行する
10.0	8	店舗の環境づくりの不備・改善点を気づいたら、気づいた自分が店舗に提案・要求していく
1.0	9	その他()
7.4	10	特に何も思わない

NA2.5

問3 いまの日本の社会は、どの程度、「障害の有無にかかわらず、女性も男性も、高齢者も若者も、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切にしたい、誰もが生き生きとした人生を享受することのできる共生社会」を実現していると思いますか。0~10までの11段階で答えください。(○は1つだけ)



問4 あなたの身近に障害のある人がいますか。あてはまるものを全てお答えください。(○はい/くても)

1	家族	2	友人	3	同僚	4	知人	5	その他()	6	いない
14.1		6.0		2.8		19.9		5.8		57.3	NA1.5

《 引用・転載時のお願い 》

本レポートの外部への引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先：日本リサーチセンター広報室 メール：information@nrc.co.jp

**掲載では必ず当社クレジットを明記していただき、
調査結果のグラフ・表をご利用の場合も、データ部分に当社クレジットの掲載をお願い致します。**